

会長のページ 県内スポーツ事情	河野 雅行	3
日州医談 「死因究明制度」について	立元 祐保	4
随 筆 宮崎県医師会諸先輩の短歌	長嶺 元久	6
エコー・リレー(500)	野間 健之, 飛松 正樹	8
メディアの目 パチンコ依存症に医師の目を	池谷 孝司	9
宮崎大学医学部だより(感覚運動医学講座 整形外科学分野)	濱田 浩朗	14
部会だより(産業医部会)	佐々木幸二	15
診療メモ 救急救命士の活動について	瀧畑 貴晃	64

宮崎県感染症発生動向	10
各郡市医師会だより	12
各種委員会(医学会誌編集委員会)	16
宮崎県医師会創立128周年記念医学会	17
九州各県医師会医療事故調査制度担当理事連絡協議会	18
九州医師会連合会平成28年度第2回各種協議会	22
あなたできますか?(平成27年度医師国家試験問題より)	33
日医インターネットニュースから	34
医師国保組合だより	36
理事会日誌	38
ベストセラー	43
県医の動き	44
追悼のことば	45
会員の異動・変更報告	46
ドクターバンク情報	49
行 事 予 定	55
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	57
宮大医学部学生のページ	66
あ と が き	70

~~~~~

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| お知らせ 宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ ..... | 16 |
| 医療事故調査制度 相談窓口 .....            | 32 |
| 宮崎県医師会医療情報コーナー .....           | 47 |
| 宮崎県医療勤務環境改善支援センター .....        | 48 |
| 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています .....   | 53 |
| 日本医師会医師年金ご加入のおすすめ .....        | 63 |
| 医師資格証を持ちましょう .....             | 67 |
| 郡市医師会への送付文書 .....              | 68 |

## 医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年 3 月12日制定)

〔表紙作品：写真〕

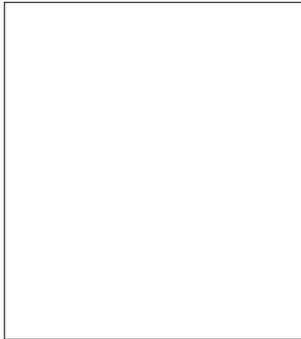
1 本桜

角館から宿泊予定のつなぎ温泉に向かう途中、小岩井牧場にバスストップ。道路に沿って牧場の柵があり、柵の外側には、夕暮れを待っている撮影者の三脚がびっしり並んでいました。その隙間から撮影しました。薄曇りで、条件はあまり良くないが、大地に根を張る凜とした一本桜です。バスは道路駐車なので、5分間の停車、もう少し時間が欲しかった。

宮崎市 にし西 むら村 あつ篤 のり乃

## 会長のページ

## 県内スポーツ事情

かわ の まさ ゆき  
河 野 雅 行

2020年には東京オリンピックが、2026年には2巡目宮崎国体が決定し、県民のスポーツに対する関心が高まりつつあります。県内出身のスポーツ選手や、県内在住の柔道、ゴルフ、駅伝、ボクシング、その他の一流選手の活躍が連日ニュースになっています。国体成績も近年では選手と関係者が奮発健闘して最下位グループから抜け出しつつあるのは喜ばしいことです。県はスポーツランド宮崎と銘打って県政の目玉の一つとして力を入れています。全国的になったゴルフ・トーナメントを始めとして多くの競技会が開催されています。各市町村ではスポーツチームの招聘に余念がなく、先日の報道によると県内全

域で驚くほど多くのプロからアマチュア選手までチームや個人で合宿・自主トレを実施し、様々なイベント開催時には交通渋滞が発生する程です。東京オリンピックに向けて、県はいくつかの競技合宿地として名乗りを上げていますし、様々なチームが視察に訪れているようです。しかし、先日、トライアスロン選手が練習中に道路を飛び出し崖から転落死するとの衝撃的な事故がありました。過去にはマラソン大会での突然死もニュースになりました。施設・環境の整備とともに、救急・医療面での充実が望まれます。幸い我が県では宮崎大学を中心にスポーツ医療に力を入れております。

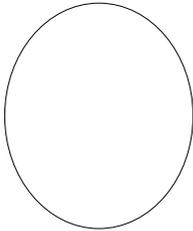
河野知事は御自身でもトライアスロン等をされるので、スポーツには理解を示されていますし、行政ではスポーツを健康や観光とリンクさせ県勢浮揚につながるものとして重視しています。県医師会もスポーツ医療を通じて全面的に協力することを打ち出しています。一方、医師会にとりましては、スポーツに拠って県民の健康増進に寄与することも重要な目的であり、必ずしもアスリートのためだけではありませんが、スポーツが盛んになること自体は歓迎すべきです。この機運を盛り上げるには、行政・医療関係者のみならず、県民がスポーツ、スポーツ医療への関心を持つことこそが肝要と思われまます。結果として県内からも一流のスポーツ選手が育つことが望まれます。

しかし、前述のように様々な問題も指摘されています。前回の国体で整備された既存の施設・設備は老朽化しており、更に正式な大会ともなれば、競技ルールの改変に伴い基準に合致しなくなった施設もあるようです。新たに、競技場・設備を整備するには莫大な費用を要すると思われまます。今後は国体に限っても単県のみで開催することが困難になり、競技種目を減らして縮小化するか、ブロックで開催するかの方法も検討する時期に来たのかもしれない。

適度なスポーツと健康増進については明確な相関が認められています。皆様も何らかのスポーツに取り組まれては如何でしょうか。但し事故や怪我にはくれぐれもご注意を。

(平成29年 3 月24日)

## 日州医談



## 「死因究明制度」について

常任理事 立 元 祐 保

## 【死因究明の現状】

諸外国に比べ我が国の死因究明制度は十分なものではない。これまでも、事故として扱われていたものが実は殺人事件であり、後になって問題になったという事例は数多くある。これまでの制度では、犯罪が疑われる死体は司法解剖され非犯罪死体に関しては公衆衛生上の観点から解剖される(死体解剖保存法第8条)と言う流れであった。本来は解剖し死因を究明したうえで犯罪性の有無を検討するべきである。しかし、わが国では犯罪性があるかないかを検討して犯罪性ありとされたもののみ司法解剖を行っている。

平成28年の警察における死体取扱い数は161,407件であったがそのうち解剖が行われた件数は20,418件で解剖率は12.6%であった。これは米国の51%、イギリスの62%に遠く及ばない。

警察における死体取扱いの流れは、次頁の表のとおりである。病死・自然死以外の死体は犯罪死体、変死体、その他の死体と分けられる。これらは、それぞれ根拠となる法律により検査が行われる。必要があれば解剖に至るがこれらが司法解剖、調査法解剖、その他の解剖である。平成28年は全国で約129万人の死亡者があり、そのうち警察取り扱い死体が161,407件、解剖に至った件数は20,418件であった。内訳は司法解剖8,326件、調査法解剖2,605件、その他の解剖9,487件である。調査法解剖とは死因・

身元調査法第6条による解剖で警察署長の判断で行う。また、“その他の解剖”は遺族の承諾により行われるもので、ほとんどは監察医務院で行われている。監察医務院は東京23区、大阪市、名古屋市、神戸市にあり、平成28年の“その他の解剖”9,487件のうち9,236件はこの4自治体で行われている。ちなみに、わが県の解剖数は81件で内訳は司法解剖77、調査法解剖3、その他の解剖1件であった。

## 【制度改革の動き】

犯罪死見逃し事例がマスコミで取り上げられるようになってようやく制度見直しの機運が高まり、平成24年には死因究明二法(死因・身元調査法と死因究明等推進法)が成立した。

死因・身元調査法では、非犯罪死体の死因究明を警察の責務と規定しAi(死亡時画像診断)や簡易薬物検査を駆使して検死の充実化を図るよう定められている。さらに、死因不明の場合は医師の意見を聞き警察署長の権限で解剖を行うこと、その財政処置は政府が講じることなどが規定されている。一方、死因究明等推進法は2年間の時限立法であったが、この法律に基づき政府に於いて死因究明等推進計画が決定された。この計画では、都道府県に「死因究明等推進協議会」を設置し地域における死因究明の能力の向上、検案医の養成、大規模災害への対応など様々な問題を協議することが求められている。この協議会の構成員は県警、県担当部局、消防、医師会、歯科医師会、大学などが考えら

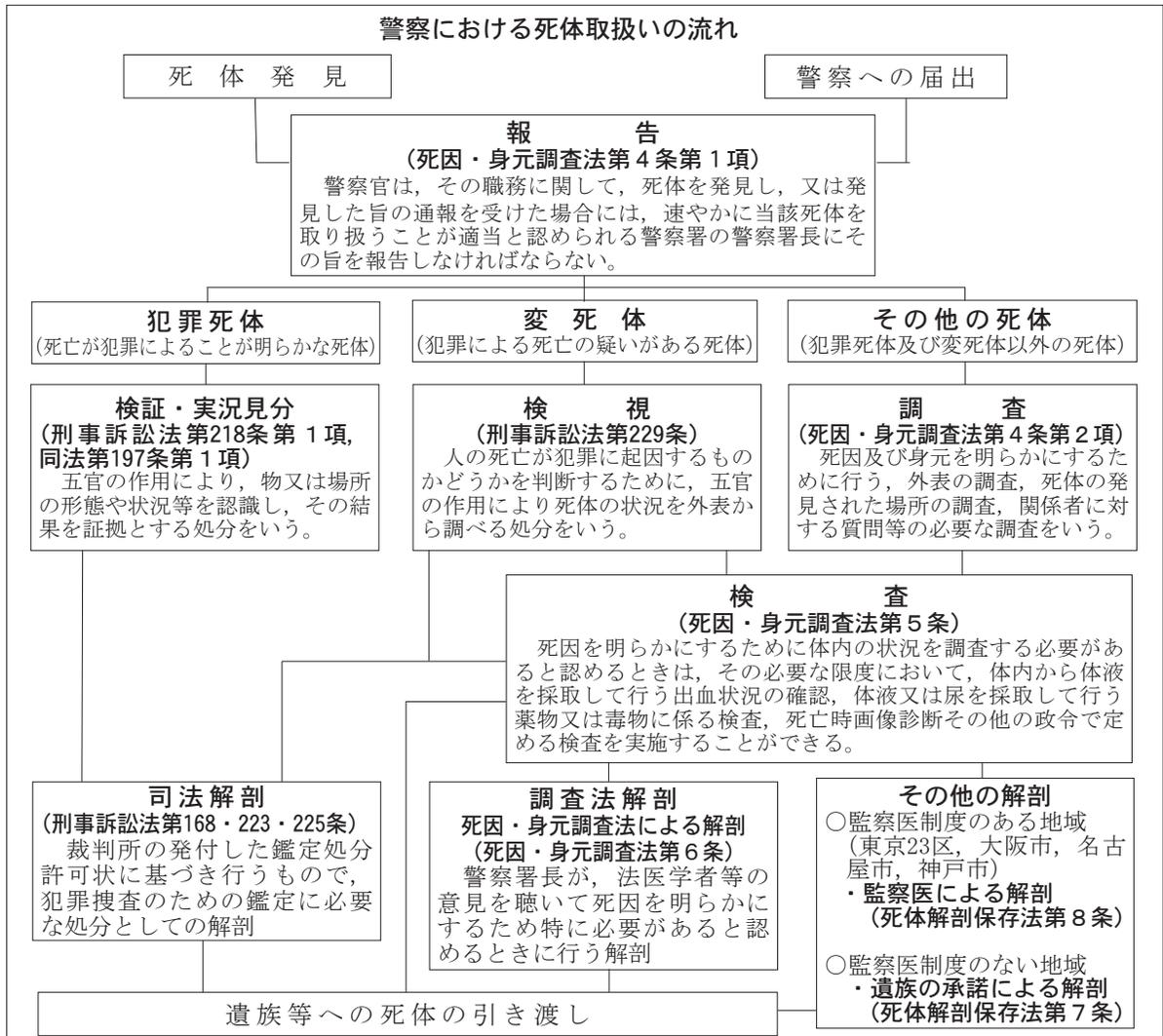
れる。国内ではすでに22の都道府県が設置しているが宮崎県ではまだ設置されていない。

【医師会の動き】

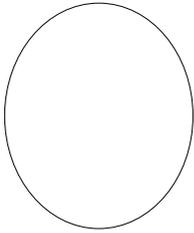
死因究明体制の充実喫緊の課題であるが同じく重要な課題に大規模災害時の検案体制がある。心配される南海トラフ地震・津波においては本県だけで最大4.2万人の死者が想定される。一方、東日本大震災の経験から一人の医師が検案できる件数は一日に25件、期間は一週間が限度とのことである。このような大規模災害の際は他県からの応援も厳しいので、多数の死体を検案できる体制づくりが急がれる。

【県医の対応】

本県では既存の宮崎県警察医会と協力し合う形で平成26年5月に、県医師会内に「警察活動に協力する医師の部会(以下、医師の部会)」を立ち上げた。それぞれ年一回の研修会を開催し、死体検案の能力アップを目指している。この講習会に出席いただいた先生方には「医師の部会」の名簿に登録していただき、現在89名の会員に登録いただいている。今年5月27日に「医師の部会」主催の講習会を予定している。講師や演題は未定であるが多くの会員に出席いただいで、県内の死因究明あるいは検案体制の充実にご協力いただきたい。



## 随 筆



## 宮崎県医師会諸先輩の短歌

宮崎市 長嶺内科クリニック なが みね もと ひさ  
長 嶺 元 久

私は、平成15年から短歌を詠み始めた。平成24年には第一歌集『カルテ棚』を上梓した。現在も自分自身が短歌を詠み続ける一方、他の方が詠まれた短歌を読むことを楽しみにしている。先日、県立図書館を訪れた際に宮崎県医師会の諸先輩の歌集に掲載された短歌を読む機会があり、数多くの佳い歌に出合った。以下にそれらの歌と私が以前から所有している雑誌に掲載されていた歌と合わせて、紹介する。なお、歌は作者の氏名の五十音順に挙げてゆくことにする。

陽光から幾度月光へ変はりしか電気  
切られし孤立死の部屋

『日向の光と影』 大西雄二

宮崎市内で内科の診療所を営みながら、警察医としての業務を全うされておられる先生である。その警察医の視点ならではの秀逸な歌である。

死とともに癌細胞は減びたりわがな  
せしこと何に値す

『日向灘』 黒松正一郎

医師として、医学の限界を痛感することにはしばしば遭遇する。まさにそれが表現された歌である。作者は都城市で内科医院をされていた。前衛短歌歌人の一人である塚本邦雄氏から、高く評価されていたとのことである。

人生の出発点にたちながら死ばかり  
診てた研修医時代

「NHK短歌」2008年6月号 児玉健二

現在も西都市で内科の開業医として、診療されておられる先生である。NHK短歌での選者であった高野公彦氏は、この歌について、「人生の出発点と終着点とが出合うという皮肉な状況をつくりだす職業選択であった。しかし、死があるからこそ生が自覚されるのであり、ある意味でいい経験をしたのではあるまいか？」と評している。児玉先生は、すばらしい短歌を数多く詠われながら、俳句、詩、エッセー、小説なども執筆され、文芸の多方面で活躍されている。

まだ暗き街に初発のバス明るし熱ひ  
かぬ児を診て帰り来る

『高見康夫遺歌集』 高見康夫

未明に熱発した小児を往診した際の景が描写されている歌である。宮崎市で昭和25年に小児科医院を開業され、長年にわたって診療された先生である。アララギ宮崎歌会の代表をされていたとのことである。

診察の机に日差し届くべくなりて庭  
より木犀匂ふ

『一樹』 高森通夫

延岡市で皮膚科を開業されていた先生である。詩人として有名な高森文夫氏の弟にあたら

れる。診療所での季節の移り変わりがさり気なく、詠まれた歌である。

**島津邸の玄関先に机据ゑチフス予防  
注射の人待つ吾は**

『松籟』 春田操

戦後まもなく旧島津邸で、チフスの予防接種をされていた場面を描写した歌で、当時の世相がわかる歌である。作者は、戦後佐土原の地に医院を開業し、診療にあられた先生である。父上は、佐土原藩医を務められていたとのことである。

**小児科はつらしと言ひるし父のこと  
ば深夜往診のいま思ひ出づ**

『野辺堅太郎全歌集』 野辺堅太郎

歌人として著名な方で、宮崎日々新聞の短歌の選者を務められていた。都城市の代々の小児科の家を継いで来られた医師として、重みがある歌である。

**楠の若葉は早も萌え出でて競ふごと  
散る病葉かなし**

「宮崎県内科医会誌」第74号 藤本孝一

延岡市で内科小児科医院を開業し、現在まで長年にわたって、診療されている先生である。楠の若葉がまぶしい季節に散る病葉に思いを馳せられる、優しい人柄が伝わってくる歌である。

**脳手術終へてリハビリに励みみる媿  
の歩みは確かになりぬ**

『冬のひかり』 水田雅久

患者さんの病状が手術とリハビリで回復してゆくことを自分の喜びとさりげなく表現されている歌である。西都市で内科医院を営まれていた先生である。

**怖くない脳梗塞も脊損も骨髓液が助  
太刀いたす**

「宮崎県内科医会誌」第90号 山村善教

医学の進歩への期待を擬人法で、巧く表現された歌である。先生は、現代の医療の社会的問題点を鋭く歌い込まれた作をこれまで、医療狂歌と題して、数多く詠われている。宮崎市佐土原町で、開業され、内科神経内科を診療されている先生である。

**夜明けまでネクタイ解かず勤めをり  
医師会救急病院の当直に未て**

『一ツ瀬川のほとりで』 芳賀日出男

ヒューマンに基づいた医師としての使命感と救急病院の当直勤務という緊張感が詠われている。作者は、歌集の名が示すように西都市の穂北という一ツ瀬川のほとりで診療所をされていた先生である。

以上、宮崎県医師会の諸先輩が詠まれた短歌を挙げてきた。いずれも日々の診療に真摯に勤しむ中での様々な思いが込められた歌である。これらの歌に学びながら、私自身さらに精進を重ねてゆきたいと思う。

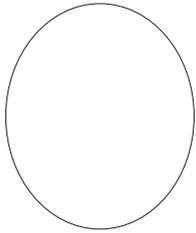
# エコー・リレー

(500回)

(南から北へ北から南へ)

## カメラのプレッシャー

宮崎市 野間内科クリニック <sup>の ま けん じ</sup> 野 間 健 之

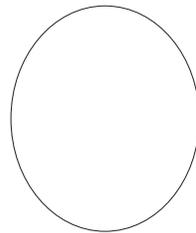


宮崎市で内科・糖尿病内科を開業して3年目になります。毎年11月14日は国連により世界糖尿病デーに指定され、世界各地でいろいろなイベントが催されています。宮崎県でも糖尿病協会を中心に、糖尿病教育セミナーや糖尿病無料検診などが行われ、糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動が推進されています。この世界糖尿病デーにちなんで、UMKテレビから取材を受けました。取材方法は、事前に私からヒアリングし、その中から局側が選んだトピックスについて詳しく話して下さい、というものでした。局側は本邦での糖尿病患者の増加とファーストフード店の増加が関連する点に触れてほしいとのことでした。しかしながら、各所に配慮をしなければならないこともあり、「糖尿病を予防するためにファーストフード店は控えましょう」とは言えず、「動物性脂肪の取りすぎに注意しましょう」と、ぼかした表現になりました。取材の中ではその他にも臨機応変にスムーズな対応ができず、局側が話してほしい表現やワードが抜けることから、3、4回の撮り直しになってしまいました。ゴルフで、カメラを向けると、途端にスイングリズムが狂い、普段はしないようなミスショットを連発する人を見かけますが、カメラは人に十分なストレスを与えます。多くの視聴者の目がある録画取材のカメラには予想以上のストレスがかかり、思ったことをスムーズに話せないことを思い知らされた苦い経験でした。

[次回は、都城市の西 勇一先生にお願いします]

## フルマラソンへ向けて

日南市 百瀬病院 <sup>とび まつ まさ き</sup> 飛 松 正 樹

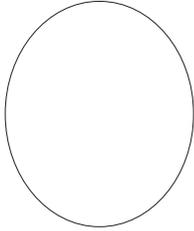


あるとき、生涯のうちにフルマラソンを走るという目標を立てた。中学生の時に陸上競技部であったし、走ることは割と好きな方だった。運動不足だったので健康にもいいだろうと考え、何よりフルマラソン完走という誇らしい気もする。そこで、それから週末はジョギングをするということにした。

週末のジョギングを始め、当時は三重県に住んでいたため、ハーフマラソンに挑戦したのがお伊勢さんマラソン。伊勢神宮周辺がコースとなっており、門前町を駆け抜け、通りでは和太鼓の応援などもあった。1キロ1キロが長く感じたが、ゴールの陸上競技場に入ると、オーロラビジョンに自分の姿も映り、ゴール前では金メダリストの野口みずきさんが走者を出迎えてくれていた。疲労感以上に達成感が心地よかったことを覚えている。それから、友人たちと鈴鹿サーキットマラソン、志摩マラソンなどハーフマラソンを5回ほど完走した。そろそろフルマラソンへと考えていた頃、宮崎へ戻ることになった。初挑戦は青島太平洋マラソンだなど考えていた。ところが、申し込みが殺到しており2年連続でエントリーに漏れてしまい、出鼻をくじかれた感じだった。それから、週末のジョギングは続けているが、いまだフルマラソンは走っていない。大会に参加するモチベーションが下がっていたようだ。先日、古い手帳を整理していたら、2011年に書いたフルマラソンを完走すると書いたメモが出てきた。気持ち新たにランニングシューズ、ウェアを新調してみた。

[次回は、宮崎市の日高 利彦先生にお願いします]

## メディアの目



## パチンコ依存症に医師の目を

共同通信社 宮崎支局長

いけ たに たか し  
池 谷 孝 司

学校の保健室は「相談室」の役割も担う。けがや体の不調で訪れた子が「この養護教諭は信頼できる」と感じると、悩み事を口にする。子どもの苦しみを知るきっかけになるのだ。医師の仕事も似ている。東日本大震災の復興を考える集会で、精神科医で「社会的ひきこもり」などの著書がある斎藤環さんが「困り事は、と避難所で聞いても、東北の人は奥ゆかしいから何も言わない。でも、私は医師だから『血圧を測りましょう。少し高めですね』と話す、自然に相談も出る。心を開いてもらうには工夫が大切」とボランティア経験を話していた。

多くの医師は「患者の人生相談に乗る時間なんか少ない」とおっしゃるかもしれない。専門以外のことは不用意に話したくない方もいるに違いない。それでも心掛けていただけないか、と願うのは、「依存症」が心の病だという視点を患者に伝えることだ。

薬物や酒だけではない。宮崎県で一番問題なのは「パチンコ依存症」だろう。人口10万人当たりのパチンコ・パチスロ台数は全国有数。連日、「新台入れ替え」の派手なテレビCMが流れる。競馬などに比べ、街中に多くの店があって気軽に入れることが敷居を低くしている。カジノ法が成立し、依存症への懸念が増す中、政府

は初めてギャンブル依存症患者の面接調査に乗り出した。パチンコ業界も対策の必要性は認めている。

宮崎県は自殺率や離婚率が全国的にも高い。夫が借金を抱えて、というケースをよく耳にする。日銀が事務局の金融広報中央委員会の調査で「お金を借りすぎている」と感じる人の割合は全国2位。子どもの貧困の問題も深刻だ。背景にパチンコ依存症の問題があることは、昨年、宮崎市で開かれた九州弁護士会連合会のシンポジウムでも指摘された。

一般の方は依存症だという認識は持ちづらい。儲かった経験が忘れられなかったり、つらさや寂しさを埋めるためだったり、はまる理由はさまざまだが、度を越すと破滅につながると分かっている、やめられない。本人も周りも「心の病」だと知れば、歯止めを掛けられる可能性が出るのではないか。治療は容易ではないが、専門の病院や民間の自助グループもある。

外科や産婦人科の医師の方も、依存症が精神病の一種だとの認識はお持ちのはずだ。患者が心を開いて「実は…」と話し始めたら、「それは依存症かも」と言ってあげれば、解決の方法が見つかり、人生を変えることもある。ぜひ、ご検討ください。

## 宮崎県感染症発生動向 ～ 2月～

平成29年 1月30日～平成29年 2月26日(第5週～第8週)

### ■全数報告の感染症

- 1類：報告なし。
- 2類：○結核29例：保健所別報告数を【図1】に示した。患者が14例、無症状病原体保有者が15例であった【表1】。患者は肺結核が10例、肺結核及びその他の結核(粟粒結核)が1例、その他の結核(結核性胸膜炎、頸部リンパ節結核、肺結核腫)が3例であった。性別は男性11例・女性18例で、年齢別報告数を【表2】に示した。
- 3類：報告なし。
- 4類：報告なし。
- 5類：○急性脳炎1例：宮崎市保健所管内から報告があった。50歳代で病原体はインフルエンザウイルスAであった。主な症状として発熱、項部硬直、意識障害がみられた。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。70歳代で、主な症状としてショック、腎不全、DIC、中枢神経症状がみられた。血清群はA群であった。
- 侵襲性肺炎球菌感染症3例：宮崎市保健所管内から報告があった。
- ・60歳代で、主な症状として頭痛、発熱、全身倦怠感、意識障害、菌血症、関節炎、膿瘍がみられた。ワクチン接種歴は不明であった。
- ・60歳代で、主な症状として頭痛、発熱、意識障害、壊死性筋膜炎がみられた。ワクチン接種歴は無かった。
- ・90歳代で、主な症状として発熱、肺炎がみられた。ワクチン接種歴は不明であった。
- 梅毒2例：延岡及び高千穂保健所管内から報告があった。
- ・20歳代男性で、病型が早期顕症梅毒(Ⅱ期)であった。主な症状は扁平コンジローマであった。
- ・80歳代男性で、病型が晩期顕症梅毒であった。主な症状は神経症状であった。

### ■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は10,741人(定点あたり214.8)で、前月の99%とほぼ横ばいであった。例年の92%と減少した。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患は手足口病、伝染性紅斑及びマイコプラズマ肺炎であった。

インフルエンザの報告数は8,403人(142.4)で前月の約1.1倍、例年の約1.0倍であった。延岡(209.9)、都城(158.2)、中央(156.0)保健所からの報告が多く、年齢別

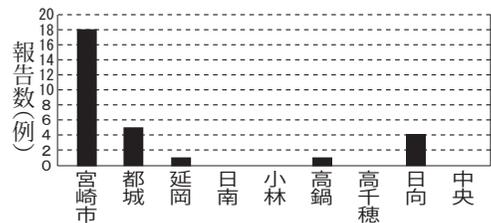


図1 結核 保健所別報告数

表1 結核 病型別報告数(例)

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 肺結核                          | 10 |
| 肺結核及びその他の結核(粟粒結核)            | 1  |
| その他の結核(結核性胸膜炎、頸部リンパ節結核、肺結核腫) | 3  |
| 無症状病原体保有者                    | 15 |

表2 結核 年齢別報告数(例)

| 年齢   | 報告数(人) |
|------|--------|
| 30歳代 | 6      |
| 40歳代 | 3      |
| 50歳代 | 2      |
| 60歳代 | 1      |
| 70歳代 | 5      |
| 80歳代 | 7      |
| 90歳代 | 5      |

### 前月との比較

|                | 2017年 2月 |          | 2017年 1月 |          | 例年との比較 |
|----------------|----------|----------|----------|----------|--------|
|                | 報告数(人)   | 定点当たり(人) | 報告数(人)   | 定点当たり(人) |        |
| インフルエンザ        | 8,403    | 142.4    | 7,554    | 128.0    |        |
| RSウイルス感染症      | 81       | 2.3      | 108      | 3.0      |        |
| 咽頭結膜熱          | 99       | 2.8      | 85       | 2.4      |        |
| ※溶レン菌咽頭炎       | 316      | 8.8      | 239      | 6.6      |        |
| 感染性胃腸炎         | 1,381    | 38.4     | 1,986    | 55.2     |        |
| 水痘             | 64       | 1.8      | 125      | 3.5      |        |
| 手足口病           | 126      | 3.5      | 104      | 2.9      | ★      |
| 伝染性紅斑          | 65       | 1.8      | 99       | 2.8      | ★      |
| 突発性発しん         | 112      | 3.1      | 87       | 2.4      |        |
| 百日咳            | 0        | 0.0      | 0        | 0.0      |        |
| ヘルパンギーナ        | 3        | 0.1      | 9        | 0.3      |        |
| 流行性耳下腺炎        | 45       | 1.3      | 55       | 1.5      |        |
| 急性出血性結膜炎       | 0        | 0.0      | 1        | 0.2      |        |
| 流行性角結膜炎        | 38       | 7.6      | 38       | 7.6      |        |
| 細菌性髄膜炎         | 0        | 0.0      | 0        | 0.0      |        |
| 無菌性髄膜炎         | 0        | 0.0      | 0        | 0.0      |        |
| マイコプラズマ肺炎      | 6        | 0.9      | 7        | 1.0      | ★      |
| クラミジア肺炎        | 0        | 0.0      | 0        | 0.0      |        |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | 2        | 0.3      | 4        | 0.6      |        |

★ 例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

では5～9歳が全体の約3割を占めた。

手足口病の報告数は126人(3.5)で前月の約1.2倍、例年の約1.6倍であった。都城(7.0)、小林(5.0)、宮崎市(4.7)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳が全体の約半数を占めた。

伝染性紅斑の報告数は65人(1.8)で前月の約0.7倍、例年の約1.5倍であった。日向(4.8)、延岡(3.0)、宮崎市(2.3)保健所からの報告が多く、年齢別では4歳が全体の約2割を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は6人(0.86)で前月の約0.9倍、例年の約3.0倍であった。宮崎市(3.0)、延岡、高鍋、日向(各1.0)保健所からの報告があり、年齢別では1～4歳が全体の半数を占めた。

## ■月報告対象疾患の発生動向 〈2017年2月〉

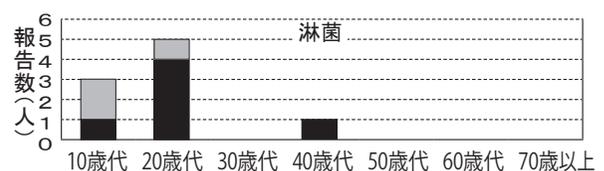
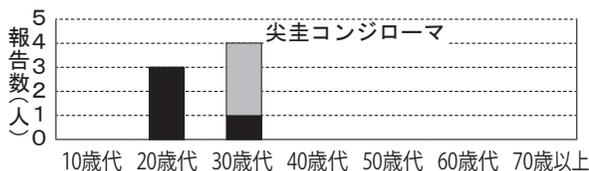
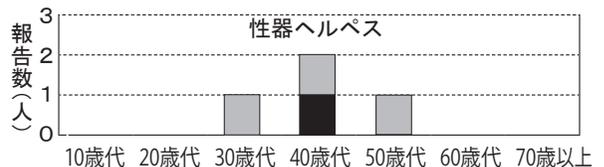
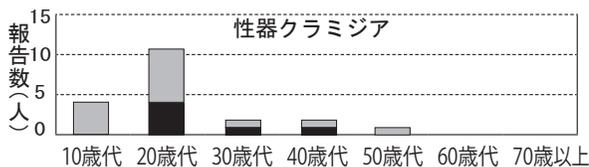
### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は40人(3.1)で、前月比89%と減少した。また、昨年2月(2.5)の121%であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月の約0.8倍、昨年2月の約0.9倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた(男性6人・女性14人)。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人(0.31)で、前月の約0.4倍、昨年2月の0.8倍であった(男性1人・女性3人)。
- 尖圭コンジローマ：報告数7人(0.54)で、前月の約2.3倍、昨年2月の約2.3倍であった(男性4人、女性3人)。
- 淋菌感染症：報告数9人(0.69)で、前月の約1.3倍、昨年2月の約4.5倍であった(男性6人・女性3人)。



■男 ■女

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は18人(2.6)で前月比129%と増加した。また昨年2月(2.9)の約0.9倍であった。

#### 《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月の約1.3倍、昨年2月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)であった(前月及び昨年2月報告なし)。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。(宮崎県衛生環境研究所)

## ■病原体検出情報(微生物部)

|      | 検出病原体                              | 件  |
|------|------------------------------------|----|
| ウイルス | コクサッキーウイルスA5型                      | 1  |
|      | コクサッキーウイルスA16型                     | 4  |
|      | ライノウイルス                            | 1  |
|      | パラインフルエンザウイルス1型                    | 1  |
|      | パラインフルエンザウイルス3型                    | 1  |
|      | エコーウイルス6型                          | 1  |
|      | インフルエンザウイルスAH3                     | 26 |
|      | インフルエンザウイルスB型(ビクトリア系統)             | 1  |
|      | アデノウイルス5型                          | 1  |
|      | 単純ヘルペスウイルス1型                       | 1  |
| 細菌   | <i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌) | 3  |

## 各郡市医師会だより

### 日向市東臼杵郡医師会

2月27日に在宅医療研修会をベルフォート日向で開催いたしました。16の職種の方々160名の参加があり、これまでで一番多い研修会となりました。今までの研修会では具体的な事例、実践例をもとにしたグループワークが中心でしたが、今回は、MSW(医療ソーシャルワーカー)の方に「一般医療機関と二次医療機関との連携強化について」介護支援専門員の方に「在宅での生活を続けるために」をテーマに在宅医療を推進していく上での課題について問題提起をしていただき、フォーラム形式での研修会としました。

当地域の限られた医療資源を効率的に活用した在宅医療の在り方について下記のような多くの意見が出されました。

- ①人材不足・業務負担の軽減に関する意見
  - ・在宅医療に係わる人材の把握と確保の必要性
  - ・地域で見守る在宅医療システムの構築の必要性
- ②在宅医療を支える機能強化に関する意見
  - ・夜間急変時の連携構築の必要性
  - ・情報を共有できるシステム・ネットワーク構築の必要性
- ③延命医療に関する意見
  - ・延命治療の在り方
  - ・施設入居時の延命治療の意思確認の必要性

研修会を重ねるごとに、多職種の方々の意識改革は確実に進んできています。今回の研修は当地域の在宅医療推進の課題が明らかになるとともに、参加者にとっても役割の在り方について再考する機会になったと思います。今後、市民と在宅医療従事者の意見交換会の開催も必要であると考えています。

(渡邊 康久)

### 宮崎市郡医師会

医師会諸施設集約移転計画の基本設計が完了し、建設工事の発注方式を「設計・施工分離発注方式」と「ECI(Early Contractor Involvement)方式」で比較、検討を行いました。分離発注方式は実施設計終了後に入札を行い、施工会社を選定する公立病院等で多く採用されている従来の方法です。今回採用に至ったECI方式は、医師会への適切なアドバイスや技術提案の検証等の支援業務を行う建設セカンドオピニオンを導入し、実施設計技術協力事業者(プロポーザルにより選定する施工予定者)を交

えて実施設計を進めていく方法です。現在、建替整備に伴う医療機器・情報システム等の整備、事業収支計画の検討を進めており、セカンドオピニオン候補者および施工予定者の選定を経て、いよいよ実施設計に着手する計画です。

(尾田 朋樹)

### 都城市北諸県郡医師会

全国的に虐待が問題となっていますが、都城市の要保護児童対策地域協議会で虐待の対応マニュアルを、都北小児科医会でもこどもの事故等報告シートを作成しました。両方を医師会の全医療機関に配布し、小児科以外の各科の先生

方からもけがや事故等の気になることもたちの情報を無作為に収集できるようにし、虐待の早期発見につなげるようにします。

医師会病院で虐待を経験され小児科医会でご報告をしていただいた先生に対策地域協議会に参加していただき現場の声を反映していただくことになりました。(政所 治道)

## 延岡市医師会

悪貨は良貨を駆逐するとは、貨幣の額面価値と実質価値に乖離が生じた場合、より実質価値の高い貨幣が流通過程から駆逐され、より実質価値の低い貨幣が流通するという法則です。介護保険でもこの法則が当てはまると思います。高齢者の危うさを、いやと言うほど知っている医療機関が行う場合、他の職種から参入した事業所に比べると、より手厚い介護をおのずと行うでしょうし、そうしなければ、医療機関が行う意味が無いです。

より高みを目指す事業所が、駆逐されない制度になってほしいものです。(高橋 博和)

## 児湯医師会

2月に高鍋町長選がありました。他の児湯地区の方々とは密接ではないかもしれませんが、新しい高鍋に期待しています。インフルエンザウイルス感染についてですが、臨床で明らかにflu感染者でないのに、学校(会社等)からの検査依頼で受診される方を結構お見受けし、必要がない旨を説明してきました。感染のリスク、医療費(保険をつかうのか?)などを考えていない行為であると個人的に思います。一概に言えない事象ですが、微力ながら医療費削減には役立っているかもしれません。(野津手 大輔)

## 西都市西児湯医師会

西都市街地より熊本方面へ車で約1時間、西米良村中心部へ着きます。県境の村では高齢化率は40%超と高く、他の田舎同様に車社会です。3月の道交法改正により、高齢者ドライ

バーへの認知症診断に係る対応も迫られています。交通の便の悪い地域で、かろうじて自立していた軽度認知機能障害レベルの人々への対応に、混乱が生じると懸念されます。良いのか悪いのか、しっかり認知症なのに自立風な方もいます。免許取り上げに加担する構図になる懸念もありますが、高齢者世帯への対応は多職種で多角的に取り組むことが肝要かとあらためて感じております。(片山 陽平)

## 南那珂医師会

昨年の日本の出生数がついに100万人を切り99万人(沖縄を除く)となりました。宮崎県は1万人を切り9,800人になりました。ちなみに日南串間の出生は520人でこの2~3年横ばい状態です。

若者の県外への流出が多く、地元の良さを伝えようと大人たちが四苦八苦しています。東日本大震災から6年、いまだに仮設に10万人、がれきが数十万トン残っているそうです。数字だけであれこれ言えませんが、お国は何をしているのかな?暗い話題ばかりですが、今日、これからの宮崎を背負ってくれる新しい命が誕生しました。この時だけはみんなが笑顔になる時です。(内村 利博)

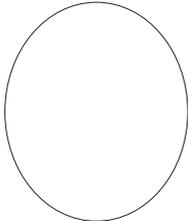
## 西諸医師会

当地域でも「地域包括ケアシステム」構築の議論が始まりましたが、具体的な準備はなかなか進んでいません。医師会と行政の協力はもちろん不可欠ですが、現実的には医療事情に精通した医師会の主導が望ましいと考えます。政府が推し進める在宅医療への移行は不可避で、介護も含めた医療従事者の不足が顕著でかつ高齢化率および独居率の高い当地域ではその対応に多くの問題を抱えており、急性期病院も含めた綿密な連携が可能となるより効率的なシステムの構築に、微力ながら努力してまいります。

(坪内 斉志)

## 宮崎大学医学部だより

### 感覚運動医学講座 — 整形外科学分野 —



ちようき えつお 教授  
帖佐 悦男 教授

平成16年5月に宮崎大学医学部整形外科学教室第3代教授に帖佐悦男先生が就任し13年が過ぎました。現在、臨床、教育、研究に精力的な活動をされており、私たちは帖佐教授の下、地域に根差した医療を目指して、日々研鑽に励んでおります。

現在の教室におきましては教授以下、鳥取部准教授、関本・濱田・谷口講師、坂本・濱中・石田・池尻・田島・山口助教(坂本・濱中・石田は病院講師)。平成27年より指定管理しております市立田野病院は黒木講師・渡邊助教、さらに救急部(中村・比嘉・日吉、長澤、川野)、医学教育(船元)が在籍しております。

当科外来は火、水、金曜日の午前に行っており、下肢、脊椎、スポーツ・上肢の3つの大きなグループに分かれております。平均外来患者数は200人/日および年間手術件数1,300件/年で年々増加傾向にあり、近年は救急部からの骨折などの外傷症例が増加しております。当科は医師のスキルアップの教育機関でもありますので大学病院ではすべての整形外科疾患を扱い、各担当による様々な手法を臨床に応用しております。また、リハビリテーション部は鳥取部准教授が中心となって心臓・肺・癌・脳疾患などを含めた幅広い医学教育・研究・臨床を、田野病院と連携して行っております。

市立田野病院におきましては、主にリハビリテーションに主眼を置いており内科・整形外科の医師によって基幹病院と互いに連携しネットワークを構成しております。また、双方の病院で上下肢の筋緊張による痙縮に対しボトックス

治療も行っておりますのでご利用いただければ幸いです。

教育に関しましては医学部学生に対する教育、市民公開講座を開催しておりますし、既卒者に対しては平成30年度より実施される新専門医制度に対応するためのプログラムを作成し、現専攻医に対しての教育を開始しております。毎月第3水曜日に行っております「三水会」では派遣先からの症例提示によるディスカッションを行っており、年2回若い先生の発表の機会を設ける目的で「宮崎整形外科懇話会」、「宮崎県スポーツ学会」、「宮崎リハビリテーション研究会」なども開催しております。また、卒業教育の一環としましては、各分野における著名な先生によるご講演を拝聴する「ひむか運動器セミナー」や「ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー」を年10回程度開催しております。今年度は9月8、9日に「第43回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会」を開催予定としており、サッカーやラグビーのナショナルチームへのチームドクターの派遣や、県内スポーツイベントにおけるメディカルサポートなども併せて取り組んでおります。

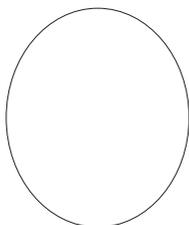
研究面におきましては、大学院生が6名在籍しており、ロコモティブシンドロームを基軸としたあらゆる臨床研究、バイオメカニクス、骨・軟骨再生、疾患遺伝子解析など精力的に行っており、英文論文にてその業績を公開しております。

今後教室の進むべき道としては、さらなる関連病院との連携や地域医療への貢献であり、患者さんの必要としている医療を提供できるような高度な医療水準をもつこと、それを実践できる人格と能力を持つ医師を育成することが使命と考えております。

帖佐教授の下、教室員一丸となって使命を果たせるよう努力いたしますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(医局長 はまだ ひろあき 濱田 浩朗)

## 部会だより

## 産 業 医 部 会

かわの まさゆき  
河野 雅行 部会長

宮崎県医師会産業医部会は、産業医活動を促進し、産業医学の研究と職場における労働者の安全・健康増進を図ることを目的に昭和51年4月に設立され、平成28年で40年を迎えました。会員数は411名(2月末現在)。役員は河野部会長(県医師会長)をはじめ、各郡市医師会等から選出された理事を中心に構成しています。主な活動としては、産業医研修会の他、年1回開催する理事会や総会、また、県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会を年2回開催し、医師会、労働局、産業保健総合支援センター、各事業者団体とで、産業保健活動についての意見交換を行っています。

近年、産業保健に関する課題はめまぐるしく変化・増大しています。平成27年にストレスチェック制度が導入され、労働者のメンタルヘルスに関する新たな取組みが始まりました。昨年末に起きた大手企業での過労死事件が大々的に報じられ、過重労働対策の意識も高まったことと存じます。また、東日本大震災に続く熊本地震の発生により、災害対策の必要性も叫ばれています。さらに、最近では、慢性疾患を抱える労働者に対する治療と仕事の両立が可能な職場づくりが推進されているところです。産業医

をはじめとする産業保健スタッフには、一部の分野についての高度な知識よりも、多様な課題を想定し、メンタルヘルスを含めた総合的な知識を有することが求められています。

このようなことから本部会では、産業医の養成および資質向上に力を入れています。研修会の内容は日医認定産業医制度関係小委員会で検討し、平成28年度は、各郡市医師会や産業保健総合支援センターにご協力をいただきながら、未認定医対象の基礎研修会を10回(29.5単位)、認定医対象の生涯研修会を53回(109単位)実施しました。このうち3回は、テレビ会議システムを利用することで、先生方のご都合の良い会場で受講いただけたことと存じます。平成29年度も各郡市医師会や産業保健総合支援センターのご協力をいただきながら、できるだけ多くの受講機会を提供してきたいと考えております。

以上、簡単にご紹介しましたが、活動状況等詳細につきましては、5月20日開催の産業医部会総会・研修会にてご報告しますので、ご出席をお願いいたします。また、当部会に入会をご希望の先生へは、入会申込書をお送りしますので、宮崎県医師会事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

(常任理事 佐々木 幸二)

## — 各種委員会 —

## 医 学 会 誌 編 集 委 員 会

と き 平成29年 3 月 1 日(水)

と ころ 県医師会館

嶋本理事の司会により開会、濱田副会長の挨拶に続き、協議が行われた。

掲載論文10編からなる第41巻第1号のカテゴリの検討が行われ、総説1編、臨床研究1編、症例1編、診療3編、地域医療3編、クリニカルカンファレンス1編と、編集後記担当者を決定した。

第41巻第2号総説の執筆依頼については、候補者の中から最終的な依頼先を委員長が選定することが承認された。

前期より引き続きの検討事項である投稿規程改訂について案が決定され、3月に行われる県医師会全理事会で協議にあげることとなった。

出席者—松岡委員長，河野副委員長，長友・中谷・甲斐・後藤・黒川・黒岩・大西・中馬・松浦・武田・松本・稲津・竹永委員  
(県医) 濱田担当副会長，嶋本担当理事，小牧・岩村副担当理事，川端主事

## 宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ

宮崎県医師会では、県医師会館で開催される講演会・研修会に参加される医師(医師会員でなくても可)のお子様を対象に本会館1階に臨時の無料託児ルームを設置いたします。県医師会が契約した保育士が対応いたします。

ご利用の場合は、事前の予約が必要となりますので、ご希望の方は開催日の2週間前までに県医師会までご連絡ください。

お問合せ先

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

担当 畠中・久永

## 宮崎県医師会創立128周年記念医学会

と き 平成29年 2 月 25 日(土)

ところ 県医師会館

開会に先立ち、医神祭を執り行った。

### 会長挨拶

河野県医師会会長挨拶(要旨)

本日は、創立128周年記念医学会にご出席賜り心より御礼申し上げます。

せっかくの機会なので、本会の創立期の歴史と医神祭について少し説明する。本会の歴史によると、明治22年 2 月 25 日に宮崎県会議事堂で 4 日間に亘り第 1 回目の連合医会総会が開催されたとのことである。その後、明治39年 5 月に医師法、同年11月に医師会規則が交付され、新法令に基づいて、明治40年に宮崎県連合医会は宮崎県医師会と改称、新設され脈々と受け継がれて来た。

また、本会の医神像は、オオナムチノカミ大穴牟遲神である。オオクニヌシ大穴牟遲神は、因幡の白兔の話で有名な大国主の若いころの名前である。大国主は様々な別名を持つ神であり、別名の一つであるオオナムチノミコト大己貴命について、古事記・日本書紀では仁徳を伝えており、医術を持って人々を救済したとされている。そのため医神として祀られるようになったのではないかと想像される。

本日はこの後、県医師会医学賞贈呈式、医学

賞講演、熊本県医師会理事の西芳徳先生の特別講演が予定されている。最後までご静聴をよろしく願いたい。

### 県医師会医学賞贈呈

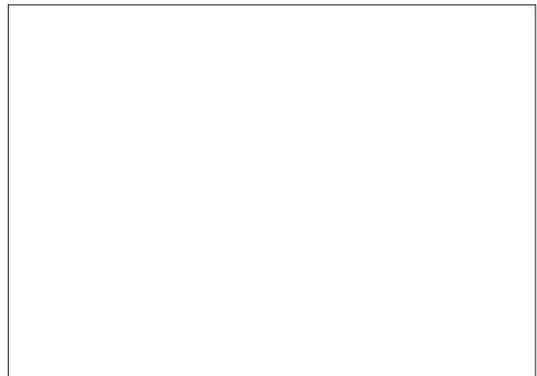
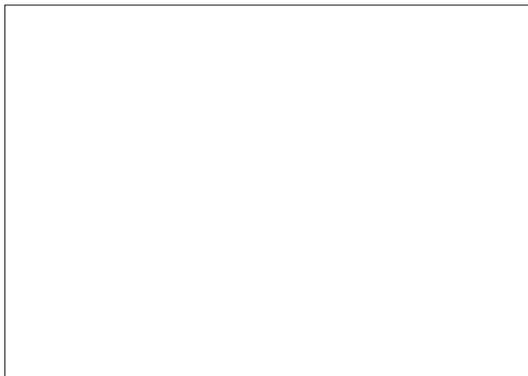
嶋本理事から、12月12日に開催された医学賞選考委員会において、宮崎県医師会医学会誌第39巻第 1 号及び第 2 号の論文の中より、山口昌俊先生他の「宮崎県産婦人科医会による思春期相談事業 7 年間の分析」が医学賞に推薦され、全理事協議会で決定された旨の説明があり、その後、山口先生に河野会長から表彰状と賞金が贈呈された。

### 医学賞講演

嶋本理事の座長により、今回医学賞を受賞された山口昌俊先生に、受賞論文の概要をご講演いただいた。

### 特別講演

河野会長の座長により、熊本県医師会理事の西芳徳先生に「熊本地震を経験して」と題してご講演いただいた。昨年 4 月に発生した熊本地震の際のご経験を踏まえた、災害医療や平常時からの備えについての非常に貴重な講演で、有意義な医学会であった。



## 九州各県医師会医療事故調査制度担当理事連絡協議会

と き 平成29年 2 月 4 日(土)

ところ ホテル日航熊本

日医より今村常任理事出席のもと、八木熊本  
県副会長が議長に選出され、協議に入った。  
協議要旨は、下記の通り。

### (1)院内事故調査委員会への支援状況について (鹿児島県)

#### <提案要旨>

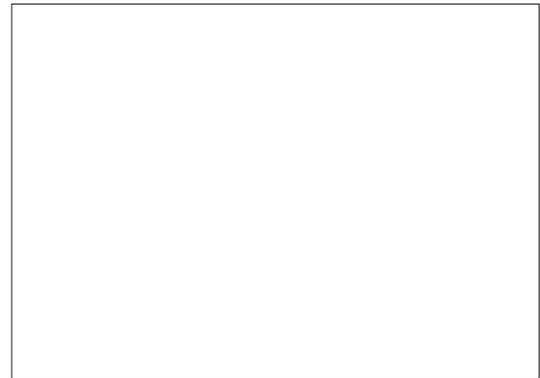
本会では、医療事故報告判断に関する相談  
に対し、担当役員等での協議は行っている  
が、院内事故調査委員会の外部委員として派  
遣を行った事例は0件である。

すでに、院内事故調査委員会への支援に関  
わっている医師会もあると思うが、困難で  
あった点や工夫をしている取り組みなどあれ  
ばご教示いただきたい。

**各県回答** 各県とも初期対応や院内事故調査  
委員会への外部委員派遣を経験されていた。  
各県とも派遣する外部委員の構成について  
は、専門性や地域などを考慮し、4名程度を  
選任しているが、担当役員が必ず入る場合や  
各郡市の役員が入るなど様々である。熊本県  
については、事例の内容・診療科目等を勘案  
し、専門医や担当役員等5名～10名の外部委  
員を選任しているとのことであった。

福岡県から困難な点として、初期対応要員  
の育成、初期対応能力が医療機関によって異  
なることにより事例の概要や論点整理の修正  
作業に追われること、報告書の作成に時間と  
労力がかかることが挙げられた。

宮崎県では、11例の院内事故調査の対応を  
経験しており、すべてにおいて県医師会医療



事故調査支援委員会です前に登録いただい  
ている協力専門医より4名程度を選任し、推薦  
している。問題点として院内事故調査委員会  
の委員長を務めていただく方が不足している  
ため、支援要請が重なった際すぐに対応がで  
きていない。この問題を解消するため、現在  
人材育成の研修会の開催や過去に外部委員を  
経験された方に打診するなどしている。

**今村日医常任理事** 福岡県でまとめられた問  
題点は、日医の会内委員会の答申でも強調さ  
れており、事例の概要、論点整理を事故調査  
の中心と捉えて、研修の重点とする必要があ  
ることを認識した。院内事故調査委員会への  
県医師会役員の参画についても、支援の重点  
施策として、今後積極的に進めていきたい。

### (2)医療機関から初動調査の支援要請に対する 対応について(長崎県)

#### <提案要旨>

制度開始から1年が経過し、九州では57件  
が報告されている。長崎県では、支援要請の

あった医療機関は比較的規模の大きい医療機関だったため、初動調査から支援した経験はない。本会では、初動調査時の手引きを作成しているが、初動調査から支援を行った医師会があれば、経験を踏まえた留意点をご教示いただきたい。

**各県回答** 熊本県では、初動からの支援を6件経験されているが、ほとんどの県で相談等はいくつか事例があるが、初動調査から支援を行った経験は少なく、宮崎県でも、現在のところ解剖施設の紹介、該当事例かどうかの相談があったのみで、初動調査からの医療機関へ出向いての支援経験はない。大分県では初動調査時からの支援要請が1件あり、Aiが必要だったため、CT撮影ができる協力施設への紹介を行ったが、死亡直後の血液採取を指示しなかったため、薬物濃度や血清カリウム値が後になり問題となったことが反省点として報告された。

**今村日医常任理事** ほとんどの県が、初動調査の支援経験がないことを認識した。日医としては、特に経験の少ない医師会の担当者に対し、情報やノウハウを伝えられるよう人材育成を含めた研修を目指していきたい。

### (3) 院内事故調査委員会に推薦する外部委員の養成について(宮崎県)

#### <提案要旨>

事故報告件数が、1年間で11件と全国と比較して多い宮崎県では、院内事故調査委員会に推薦する外部委員、とりわけ委員長をお願いする人材確保に苦慮している。各県では、外部委員をお願いする方の人選及び育成について、どのようにされているのかお聞きしたい。九州ブロック内での人材養成のための研修会を、できればアクセスの良い福岡県で開催していただけないか、ご検討をお願いしたい。

**各県回答** 各県ともに、外部委員の推薦については、支援団体に参画している医療機関からの推薦や大学に一任しているなど様々であった。九州ブロックでの人材養成のための研修会の実施については、検討を求める声が上がった。開催候補地に名前が挙がった福岡県からは、各県のご意向を踏まえ、対応できるよう考えていきたいとの意向が示された。

**今村日医常任理事** 医療事故調査制度での人材の育成は、現段階では最も重要な課題である。現在は、日医や日本医療安全調査機構など、中央組織を中心とした育成体制となっているが、ある程度数が増えてくれば、ブロック単位や都道府県毎に考えて良いと思っている。また、日医では、日本医療機能評価機構と協力して、医療メディエータの育成についても力を入れており、各県医師会も参画いただければと思っている。

### (4) 院内事故調査委員会における支援団体(県医師会)としての状況と課題について(熊本県) <提案要旨>

制度発足1年数か月を経過し、支援団体(県医師会)としての役割を果たす中で、各県の状況や初動支援から院内事故調査委員会の開催で課題があればご教示いただきたい。特に、専門医の選任に苦慮している。

**各県回答** 各県からは、院内事故調査委員会に推薦する外部委員(専門医)の人材確保について、件数が増えた場合に、一部の専門医に偏ってしまうことや担当理事が必ず参加している県では理事への負担が増えることなどの懸念が報告された。宮崎県では、現在のところ、外部委員の推薦については、委員長を医療事故調査支援委員会常任委員会で決定し、委員長がその他の委員を選任し、常任委員会で承認している。外部委員の候補については、各郡市・各専門医会から推薦していた

だいた協力専門医から人選を行っている。

**今村日医常任理事** 外部専門委員の選任がネックとなっていることが、各県共通の課題であることを認識した。宮崎県のように予め協力専門委員をリスト化しておくことは効果的だが、リストを作成することが困難だという地域も多いと思われる。支援センターでも、各学会の協力医に関する全国の情報を持っているので、医師会組織との相互協力などについても検討していく。地域での専門医の選任が難航する場合は、支援センターに直接相談いただくことを考えてもらってよい。

#### (5)遺族が警察へ届出たことにより司法解剖に至った事例の「医療事故調査制度」に関する医療事故調査・支援センターへの報告について (佐賀県)

##### <提案要旨>

全国医学部長病院会議で、日本医療安全調査機構へ確認すべく申し入れを行っている通り、遺族が警察へ届出たことにより司法解剖に至るなど、係争の手段として行われる事例については、医療事故調査制度の埒外で処理されるべきと考えるが、各県のご意見をお伺いしたい。

**各県回答** 各県ともに医療事故調査制度は、あくまで原因追及のための制度であり、説明責任や紛争の処理は制度の範囲外と考え、係争事例であっても医療法上は、管理者が同調査制度に該当する事例であると判断した場合は、支援センターに報告するという意見であった。

福岡県からは、医療事故調査制度が医療機関での病態解明、医療の安全と事故の再発防止を目的としている以上、予期せぬ死亡、死産なのか判断に迷う場合なども含めて、支援センターへ報告し、調査・分析することが重要であるとされた。鹿児島県からは、係争事

案と分けて考えると自浄機能が働かないのではないかとの見方をされる可能性もあり、医師法21条の改正などを含めより厳しい制度へと変革していくことも懸念される。

現時点では、現状の仕組みの中で、粛々と対応していくことが求められるのではないかとの考えを示された。

また、警察への届け出がなされると関係書類が押収され、委員会を開くことが困難になるとのご意見もあった。

宮崎県では、民事である医事紛争として抗争しながら支援センターにも事故報告を行ったケースが発生している。遺族が警察に届け出を行い司法解剖に至るケースは、遺族に対する医療事故調査制度の説明不足から生じていることも否めず、医療機関側の管理者が医療事故調査制度を十分理解していないことからきた可能性も否定できない。

**今村日医常任理事** 法の解釈としては、医療法に基づく医療事故調査制度なので、刑法上の業務上過失致死や民法上の損害賠償などは別の制度であり、「警察に届けられた事例は、医療事故調査制度の対象外になる」という解釈はない。粛々と院内事故調査を行なうことになる。刑事事件化された場合、様々な資料が証拠として押収され、刑事訴訟法の制約などから院内事故調査で参照することができなくなる可能性が高いことから、警察の理解を得ながら情報を入手する必要もある。

#### (6)調査の質を担保するための人材確保及び育成について(福岡県)

##### <提案要旨>

福岡県では、20件の支援依頼があったが、調査及び院内事故調査報告書の質を担保するためにも初期対応・委員長・院内事故調査委員会報告書(案)作成者の確保・育成は重要課題と考えているが、各県の人材確保及び育

成に関する対応及び考えをお伺いしたい。

**各県回答** 各県とも、調査の質を担保するための人材確保及び育成については、重要課題との認識している。しかし、そのための研修会を県単独で開催することは難しく、日医での研修会の継続的な開催を望む意見や九州ブロック内での研修会の開催を求める意見が出された。

また、報告書については、外部委員が作成する場合と該当医療機関が作成する場合と各県様々であった。

**今村日医常任理事** 提案事項(3)でも述べた通り、最重要課題と考えており、今後の研修会等で、委員長候補の育成、受講しやすいようなスケジュール、開催の数、開催地等について検討していきたい。

#### (7)医療機関への周知啓発について(沖縄県)

##### <提案要旨>

各医療機関において、医療事故調査制度がスムーズに取り組まれているのか把握できない現状であり、各県の当制度の周知方法等についてアドバイスをいただけると有難い。

**各県回答** 各県では、医療事故調査制度に関する研修会の開催、医師会報や県医ホームページへ掲載し周知を行っている。

宮崎県では、医療事故調査制度に関する医療事故発生時対応マニュアルを作成し、医療機関に配布した。また、希望する郡市医師会

へ役員を派遣し、県医師会の取組みと医療事故調査制度の趣旨説明を行った。

**今村日医常任理事** 日医雑誌2月号に協力依頼文と支援センター作成のポスターおよび改訂版のリーフレット3点を同封し、全会員へ配布することなどで、周知活動に取り組んでいる。

しかし、ものを配布することだけでは、効果は極めて限定的であることから、研修会・説明会などの啓発活動は欠かせないと考えている。なお、医療事故調査制度という名称について、変更すべきとのご意見が多いこともあり、改正について今後も働きかけていきたい。

**(その他) 調査委員会で報告書を作成するまでに至ったメモなどの資料は、どうすればよいか？**

**各県回答** 基本的には、内部資料として外には出さない考えという意見が多く、処分することになっている県もあった。

**今村日医常任理事** 院内事故調査委員会の内部資料を、証拠資料として提出することの可否については、提出する必要はなく、提出を求められた場合には、支援センターに提出した報告書を提出すればよいと考えている。

出席者一濱田副会長、小牧常任理事、田崎主事

## 九州医師会連合会平成28年度第2回各種協議会

と き 平成29年 2 月 4 日(土)

ところ ホテル日航熊本

### 地域医療対策協議会

伊津野熊本県医理事の進行により開会し、坂本熊本県医副会長、松原日医副会長の挨拶の後、座長に担当県の坂本副会長が選出され協議に入った。



#### (1) 地域医療構想策定後の取組みについて

(福岡県)

##### <提案要旨>

経営母体が異なる医療機関の間での機能分化の協議がどの程度進んでいるのか、また、病床の機能転換等における地域医療介護総合確保基金の配分時期及び具体的な方法などについて、各県の状況をお伺いしたい。

#### (2) 地域医療構想調整会議のあり方について

(鹿児島県)

##### <提案要旨>

各県医師会で地域医療構想策定後の構想区域ごとの調整会議の進め方や県単位での進捗管理・議論のあり方などを具体的に検討され

ていらっしゃればご教示いただきたい。

#### (3) 保健医療計画における基準病床数と地域医療構想の関係性等について(沖縄県)

##### <提案要旨>

各圏域毎に病床整備に関する議論を行うにあたっては、地域医療構想で示される高度急性期～慢性期までの機能分化という視点がある一方で、法的な効力(抑制力)を持つ基準病床数は、一般病床と療養病床という2つの性質しか示されておらず、違和感がある状態である。調整会議と医療審議会の関係等、どのように整理していくべきか。

#### (4) 地域医療構想における各医療圏の特徴の把握と各ステージの必要病床数の妥当性について(大分県)

##### <提案要旨>

大分県のデータを一部分析してみたところ、高度急性期、急性期の必要病床数は、「患者の流入・流出の数」、慢性期は高齢化率の関与が大きいという印象を受けた。回復期は特に特徴がなく、6医療圏中5医療圏で最も必要病床数が多かったが、現在がら空き(5,391床中2,127床しか埋まっていない)で急性期からの転換はどうなるのであろうか。日医、各県の見解及び工夫等があればご教示いただきたい。

#### (5) 地域医療構想による病床数の議論について(熊本県)

##### <提案要旨>

ある記事によると、まだまだ初めに病床数

削減ありきという雰囲気が続いていると感じている。地域医療構想の策定が進む中、病床数に対する議論は各県にて現在どのようになっているか今一度確認したい。日医の見解もお伺いしたい。

#### (6) 地域医療構想における在宅医療についての今後の見通しはどのようになっているのか

(長崎県)

##### <提案要旨>

長崎県の場合、病床の医療需要は横ばいであるが在宅医療などの医療需要が大幅に増加する傾向にあると言われている。すなわち、65歳以上の人口のピークは2025年であるが、75歳以上の人口は2035年を過ぎても伸び続ける傾向にある。更に、2035年には、65歳未満の人口は、98万人から70万人と著しく減少する予想なので、医療・介護に従事する人員も不足すると考えられる。

今後、訪問看護師や在宅医療をやる若い医師が確保出来れば良いのだが、果たして病院の医師の人数も減ると予想される中で在宅医療が出来るか不安である。

在宅医療を担う医師及び医療スタッフの確保に対し各県の見解を教えてください。

#### (7) 療養病床に関する最新の情報と日本医師会の考え方(宮崎県)

##### <提案要旨>

地域包括ケアシステムの構築は未だ未整備の地域が多く、在宅診療を行う医師が不十分な現状では、想定される患者数を在宅へ移行することは困難と思われる。現行の介護療養型、医療療養型病床25対1は本当に29年度末で廃止となるのか。「療養病床のあり方等に関する検討会」における整理案に基づいて、現在「社会保障審議会」の特別部会で検討がなされているが、現時点での情報、及び、日本医師会の考え方をお伺いしたい。

(1)～(7)は一括協議された。

**各県回答** 地域医療構想の策定状況については福岡県、熊本県及び沖縄県が未策定で、それぞれ平成29年度内には策定予定である。調整会議の開催状況については、策定済みで開催済みが、佐賀県と大分県であった。佐賀県では、調整会議の協議の取扱要綱に公立病院が病床変更するような場合や地域医療連携推進法人ができるような場合は調整会議で話し合うという決まりを設けたと報告があった。また、経営母体が異なる医療機関の間や県境地域の協議の困難さについての意見が出された。なお、宮崎県の地域医療構想は平成28年10月に策定済みで、今年度中にすべての構想区域で調整会議が開催される予定である。

基準病床数と必要病床数については、両者はまったく異なる概念であり比べられないものであることを繰り返し、関係者やマスコミ、市民に対して説明し浸透させていかなければならないことが確認された。

地域医療介護総合確保基金の病床転換等への活用状況については、策定後に活用するところ、策定前でも活用しているところがあり、宮崎県では病床機能の不足が明らかな場合に限り認めている。

在宅医療に関しては、高齢者が増えるだけでなく若い人が減る状況で、人材を確保することができるのか心配する声が上がった。

**松原日医副会長** 地域医療構想はあくまで、現時点のデータを集めて推計し、それを目安にして2025年を乗り切るためのものである。病床が多いから減らすというものでは全くない。あくまで目安であると説明をしてほしい。高齢化が進んでいく状況でどういう医療機能が足りないか、どのような医療が必要か地域でご議論いただきたい。

地域医療構想における、在宅医療等の「等」

には、サービス付き高齢者向け住宅や特別養護老人ホームも入っている。特別養護老人ホーム等から3次救急に送られる患者が多く3次救急が疲弊しているような問題も聞かれ、医療と介護での議論も十分にしてもらいたい。

療養病床に関しては、介護療養病床は介護医療院という新類型に移行する経過措置が6年間と決まった。医療療養病床も経過措置期間を6年にしていただくよう議論している。

#### (8) 医師の地理的偏在の解消に向けて(熊本県)

##### <提案要旨>

NPO法人全世代は、医師の地域偏在解消に関して、保険医制度の見直しで「保険医」登録の条件や「保険医療機関の責任者」(院長など)となるための条件として、専門医研修修了後の一定期間「深刻な医師不足地域」での勤務実績を求めていると提案している。各県、日医のご意見をお伺いしたい。

**各県回答** NPO法人全世代の提案に対する懸念の声が多かった。松原日医副会長は、医師の偏在対策は日医でも議論をしており、国の管理でなく我々の意思でやるべきで、NPO法人全世代にも日医の考えを説明していると述べた。

#### (9) 看護職確保に係る施策について(佐賀県)

##### <提案要旨>

地域医療構想の機能分化を促進するためには、ハードの転換支援施策も必要であるが、同時に看護職の確保に係る施策も非常に重要である。

各県のナースセンターの運用実績についてご教示願いたい。また、潜在看護職等の人材確保について特別な取組みが行われていれば、併せてお伺いしたい。

**各県回答** 各県から、ナースセンターの運用実績の報告があった。潜在看護師に復帰していただくためには働きやすさが重要視されていることや、夜勤をする看護師確保が難しくなっており、それなりの報酬をだせるように診療報酬等による評価を求める意見があった。

#### (10) 脳卒中地域医療連携に係るパスの運用等について(沖縄県)

##### <提案要旨>

脳卒中地域医療連携では、これまで連携している保険医療機関と年3回の会合を持つことが算定要件となるが、「地域連携診療計画管理料」「地域連携診療計画退院時指導料」の算定が可能となっており、その会合を本会が運営してきた。

しかしながら、平成28年診療報酬改定により、上記管理料・指導料が廃止され、代わりに「退院支援加算」と「地域連携診療計画加算」を算定することとなった。これには、これまで同様な3回以上の頻度で面会することが要件とされているものの、「直接に対面して業務上の意思疎通を行う」「会合や研修で一同に会することでは要件を満たさない」など厳しい要件となっている。診療報酬算定が可能となる具体的な運用方法等があればご教示いただきたい。

**各県回答** 沖縄県以外で、医師会が会合の運営をしているところはなかった。松原日医常任理事は、現場で困っていることであるので修正していきたいと述べた。

出席者一富田副会長、池井・佐々木(幸)・高村常任理事、峰松・米澤理事、久永課長、串間主事

## 医療保険対策協議会

医療保険対策協議会は、松本日医常任理事の出席のもと開催された。協議は、各県から提案された8項目をもとに行われ、松本常任理事よりコメントが加えられた。

協議の概要は、以下の通りである。



### (1)療養病棟入院基本料2の行方(福岡県)

#### <提案要旨>

平成30年3月までの経過措置である療養病棟入院基本料2は、平成28年度改定で医療区分2及び3の患者が5割以上を満たすことの要件が加えられ、9月30日の経過措置以降は看護職員数の基準を満たさない場合、95%の算定に引き下げられた。新タイプの議論も行われているが、新たな資金投資が必要であり、まず既存病床の有効活用が必要と考えるが、各県の状況及び日医の意見を伺いたい。

**各県回答** 各県ともに要件緩和や経過措置の延長についての意見が多く聞かれた。

**松本日医常任理事** 1月25日の中医協で次期診療報酬改定に向けた議論が始まり、現在の算定状況等を勘案すると、介護療養病床は6年間の経過措置を設けることがほぼまとまっている。

中川日医副会長は、医療療養病床からも新タイプへの移行が可能なことから、混乱を避け

るために6年間の経過期間も同様にすべきと発言し、療養病棟入院基本料2の算定の延長を求めたところである。日医社会保険診療報酬検討委員会での議論を踏まえた上で、最終的な日医の対応方針を決定していく。

### (2)入院患者救急搬送時の入院基本料と救急搬送診療料の同時算定と、救急搬送時の看護師同乗に関する新たな診療報酬の設定の要望について(佐賀県)

#### <提案要旨>

救急搬送時の医師同乗は、救急搬送診療料が算定出来るが、入院患者については入院基本料との同時算定が不可となることに疑問を感じる。また、救急隊や搬送先から搬送に看護師の同乗を求められ、同乗した際、搬送元の業務への支障、帰路の交通費など負担は大きく、診療報酬上でその評価をしていただきたい。

**各県回答** 各県ともこの件について賛同する意見であった。福岡県からは、将来的にどの入院施設でも急変の可能性の高いハイリスク患者の入院割合が増加することが想定されるため、診療報酬上でも療養病床などでの負担増加を軽減させる措置や正・准を問わず看護師の同乗への評価をお願いしたいとの意見や鹿児島県からは、転送搬送が全救急出動件数の1割弱を占めるとして、転送搬送のルール化に向けた取組みを検討すべきとの意見が出された。

また宮崎県は、産科においては特に医師同乗のケースが多く、外来診療がストップすることから、救急搬送診療料自体の増額を要望した。

**松本日医常任理事** 療養病床に入院する患者が急性増悪等により他の医療機関に転院する場合は、当日を1日目として3日前までの間は入院基本料1の算定となり、包括されてい

る検査、注射、投薬については、出来高算定が可能である。その対応では不十分ということであれば、九州ブロックとして診療報酬改定の際の要望事項としてしっかりと挙げていただければ、診療報酬検討委員会で検討する。搬送時の看護師の同乗については、指摘の通り、現在の診療報酬では評価されていない。財源や優先課題の問題があり、実現に至っていないが、次期改定の検討事項としたい。

### (3)在宅医療専門の医療機関について(沖縄県)

#### <提案要旨>

在宅医療の提供体制を補完するため、平成28年度診療報酬改定で、一定要件を満たせば在宅医療専門診療所が認められることとなった。地区医師会の同意を得ることも開設要件の一つだが、地域内に2か所以上の協力医療機関があれば、医師会の同意は不要である。さらに、形だけの外来機能を置いて通常の診療所として申請し、実態は在宅のみを行っても要件に抵触しない可能性がある。これまでに在宅医療専門の医療機関があったかどうか、その際に医師会としてどのような対応を行ったか、ご意見を伺いたい。

**各県回答** 宮崎県と大分県で、それぞれ2か所が在宅医療専門診療所として開設されている。いずれも近隣医療機関や都市医師会と良好な関係を築いており、現時点で問題は生じていない。

また、各県から地域医師会と積極的に連携して在宅医療を守っていくこと、貢献していただくことの見解が出された。長崎県からは、設置当初から積極的に医師会に入会いただくべきとする意見も出された。

**松本日医常任理事** 日医は以前からこのような状況は把握しており、かかりつけ医の外来診療の延長に在宅医療があるべきという考え

を示している。しかし、超高齢社会を迎え、在宅医療の必要性が高まる中で、在宅医療を担うかかりつけ医が不足している現状では、かかりつけ医だけで在宅医療に対応することが難しくなっている。

そのため今回のような地域医師会との連携を含む7項目の要件を課したうえで、かかりつけ医を後方支援する在宅医療専門診療所を容認した。ご意見いただいたとおり、地域医療に協力的でない診療所が増え、地域医療を乱すことが生じないように、次期改定でも対処していきたい。悪用例があれば日医へ情報提供いただきたい。

### (4)小規模多機能型居宅介護・複合型サービスを受けているものへの訪問診療について

(大分県)

#### <提案要旨>

小規模多機能型居宅介護または複合型サービスを受けている要介護者に対して「在宅患者訪問診療料、在宅時医学総合管理料、在宅がん医療総合診療料」を算定する場合、「当該サービスの利用を開始した日から30日の間に限り算定できる」と定められている。30日を越えた場合は、一旦自宅に戻って訪問診療を行わないと算定できない。独居などの事情で自宅での介護が困難になった場合、やむなく30日を越えて入所しているケースも少なくない。個々の事情に即した柔軟な対応へ改善をお願いしたい。

**各県回答** 各県ともこの件について賛成の意見である。各県ともに個別事例に応じた取扱いができるような要件設定にすべきとし、柔軟な対応を求める意見で一致し、日医への改善要請がなされた。

**松本日医常任理事** 引き続き訪問診療を可能とするために、一時的に帰宅させることの意味を問う意見である。指摘の通り、もう少し

柔軟的な対応ができるよう、次回、医療・介護同時改定で、より運用しやすい形に修正できるように検討したい。

#### (5)有床診療所の活性化について(熊本県)

##### <提案要旨>

有床診療所は医療法で役割が規定され“地域包括ケアシステム”の担い手としてまた“かかりつけ医”を担う医療機関として評価されている。しかしながら最近では、病床数の減少に歯止めがかからず、開設者の高齢化、夜勤看護スタッフの確保、後継者問題等が一因とされている。入院基本料の底上げ、夜勤看護配置加算、医師配置加算など更なる手当を施さないと消滅の危機に陥りかねない。その点に関する診療報酬上の配慮を日医へ要望する。

**各県回答** いずれの県も同意見で、地域包括ケアシステムを担う有診には、更なる診療報酬上の手当が必要とする意見であった。

大分県の現状として、全体の約40%が病床稼働率10%未満であり、その内、1年間の患者受け入れが無かった医療機関が16%と、実質的な無床化が進んでいることとの報告があった。

**松本日医常任理事** 貴重な医療資源である有床診療所をこれ以上減らさないよう、有床診療所の新規開設についての要件緩和が検討されており、日医として、様々な場で有床診療所の機能を説明して支援を求めてきた。また、診療報酬財源が厳しい中、地域における有床診療所の機能を評価するため、入院基本料の底上げや一定の機能を有する有床診療所に対して重点的に評価してきたが、まだまだ手当が足らないと認識している。更なる引き上げには、十分なエビデンスが必要となるので、是非、日医まで情報提供や意見をいただきたい。

#### (6)審査支払機関の改革について(鹿児島県)

##### <提案要旨>

内閣府の規制改革推進会議の議論に基づき、厚生労働省「データヘルス時代の質の高い医療の実現に向けた有識者検討会」で支払基金以外を審査業務に活用することも検討されている。万が一、審査支払機関が複数できてしまうと、医療機関は患者(保険者)ごとに請求先が異なり、大きな事務負担が発生する。

また、社保・国保間の審査格差を解消することは重要課題であるが、全国審査業務の統一化、審査機関の統合などは慎重に考える必要がある。改革によるしわ寄せを医療機関に強いることがないように、日医には十分な対応をお願いしたい。

**各県回答** 各県ともに審査の効率化、地域格差の解消に賛同するが、現在の審査は地域性も考慮されている部分もあり、全国一元化によって審査基準が厳しくなることの可能性など審査の画一化に危惧を抱いているという意見も出された。

**松本日医常任理事** 審査支払機関の改革について、規制改革会議で支払基金を前提にした見直しではなく、診療報酬審査の在り方をゼロベースで見直すという改革の方向性が示され、有識者検討会では、都道府県ごとに置く必要はなく、都道府県支部を廃止するような強い主張があった。これに対して、松原日医副会長から、診療報酬の審査は支払基金との顔の見える信頼関係で成り立っており、都道府県単位の支部の必要性を説明し、存続を強く訴えた。

1月に公表された報告書では、支部に必要な機能がどのようなものか明らかにしたうえで方向性を定めるべきと取りまとめられた。また、審査を民間に拡大するには、相当なハー

ドルを設けるべきと認識しているが、有識者会議などの意見では、単に医療機関の請求を査定する削り屋の活用とされている。公正中立な立場での審査が望めない機関は、認めることはできない。

### (7) 厚生局指導要件について(宮崎県)

#### <提案要旨>

集团的個別指導を受けた医療機関で、翌年度の実績でも、高点数であった医療機関は、特に診療上問題がなくても、個別指導の対象となる。正規の診療をしているにもかかわらず、数年おきに個別指導対象となることは本来の指導指針にそぐわない。このような医療機関では、次の個別指導の対象になった場合、対象医療機関から外すようにしていただきたい。毎年のように厚生局へ要望として出しているが、改善の余地はあるのか日医に伺いたい。

**各県回答** 全県が現行の集团的個別指導の翌年度の高点数を理由とした個別指導の選定について、否定する意見であり、何らかの対処を求める意見であった。

**松本日医常任理事** 診療内容に問題が無ければ、除外される方法を検討はしている。高点数のために個別指導の対象となってしまうことの是正については、継続して厚労省に要請しているところである。

### (8) 診療情報提供料に関する個別指導での指導について(長崎県)

#### <提案要旨>

数年前から、個別指導時の診療情報提供料の内容についての指導が厳しくなってきた。

1. 眼科医が手術のために、かかりつけ医の診療内容や手術可否を問う内容
2. 泌尿器科手術後に、紹介元の内科かかりつけ医に手術の内容を報告する内容

だけの診療情報提供書では指導の対象となるようになった。

手術に必要な情報を得ることや、紹介元医療機関が他院での術後の診療を知ることは、大切である。診療情報提供書は、かかりつけ医と専門医を繋ぐ大切な情報源と考える。この指導について、日医及び各県のご意見を伺いたい。

**各県回答** 鹿児島県、熊本県、沖縄県以外の県では、同様に診療情報提供料を巡る指導が強化されている。各県ともにかかりつけ医と専門医間との情報提供については、必要なことであるから評価をしていただくべきとの意見であった。

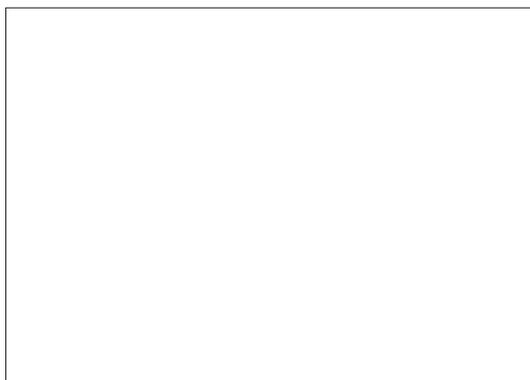
**松本日医常任理事** 診療情報提供料の算定については、患者の移動を伴う時に算定するものとなっている。手術に必要な情報を得ることやかかりつけ医が他院での診療内容を知るとは、保険医療養担当規則第2条の2で、「情報共有を適切に行うこと」とされている。

診療情報提供料が算定できないために情報共有が行えないというのではなく、療担規則に基づいて適切に情報共有を行っていただきたい。診療に必要な情報提供であるので、診療報酬で評価してほしいということは理解できる。

出席者一濱田副会長、小牧常任理事、佐々木・川野・嶋本理事、田崎主事

### 介護保険対策協議会 (在宅医療・地域包括ケアを含む)

宮本熊本県医理事の進行により開会し、林熊本県医理事、鈴木日医常任理事の挨拶の後、座長に担当県の林熊本県医理事が選出され協議に入った。



### (1) 地域医療構想と地域医療計画における在宅医療の整備について(福岡県)

#### <提案要旨>

地域医療構想の中で、地域医療の最後の受け皿となる在宅医療が「在宅医療等」と一括りに示されている。在宅医療の総数、さらには自宅在宅と居宅系施設在宅を市町村単位、地区医師会単位で具体的にどの程度まで整備すべきかについて苦慮している。

地域医療構想や地域医療計画策定に向けた在宅医療に関する各県の取り組み状況、また、自宅在宅と居宅系施設在宅の整備目標について、日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 既に地域医療構想を策定している県でも、引き続き在宅医療等の医療需要について実態把握に努め、次期医療計画に反映できるよう検討していきたいとの意見であった。

**鈴木日医常任理事** 在宅医療の在り方は多様化しており、在宅医療だけを切り出して論じることが出来なくなっている。今後は、入院医療、外来医療、施設入所を含む在宅医療を一連の体制として考え、地域特性を考慮しながら地域全体で患者を支えるという意識が必要である。

### (2) 在宅医療と介護の連携を図るための人材育成について(沖縄県)

#### <提案要旨>

地域包括ケアシステムにおいては市町村の働きが重要であり、各市町村で、在宅医療と介護の連携を図るためのコーディネータ育成を積極的に進める必要がある。

各県で事例があれば伺いたい。

**各県回答** 佐賀県から、平成28年度の地域医療介護総合確保基金事業「佐賀県慢性期病床等機能分化促進支援事業(2か年事業)」の1メニューとして、8郡市医師会で「機能分化・連携促進コーディネータ配置事業」が実施されており、市町村と連携しながらコーディネータの定着に努めていることが報告された。また、熊本県から、平成27年度に5市町村で、市町村および地域包括支援センターのコーディネータとして、在宅医療介護連携推進員を配置し、医療介護連携体制づくりを推進するモデル事業が実施され、平成28年度は全県下へ拡大していることが報告された。

**鈴木日医常任理事** 先進県での取り組みも参考にしながら、地域医療介護総合確保基金の事業等を有効に活用し、医師会がコーディネータの育成に積極的に関わっていただきたい。

### (3) 在宅医療を担う医師、訪問看護師の地域偏在について現状と対策(大分県)

#### <提案要旨>

「住み慣れた地域で自分らしく生き、最期を迎えること」を実現するためには、在宅かかりつけ医、訪問看護師の存在が欠かせない。しかしながら、大分県ではこれらの医療資源に地域格差(偏在)がある。

各県の現状と対策、また、日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 各県とも医療資源が都市部に集中している現状や、郡市医単位での多職種連携体制の強化を推進するなどの対策について報

告された。

**鈴木日医常任理事** 日医で実施している在宅医療関連講師人材養成事業研修会の受講者が中心となって、地域での人材確保など積極的に取り組んでいただきたい。また、在宅医療に限らず、医療人材の確保は継続的な課題であり、日医では高齢者や女性が働きやすい職場体制作りの推進と、次の世代の育成を同時に検討していきたい。

#### (4)療養病床の今後のあり方について

(鹿児島県)

##### <提案要旨>

療養病床について、日医におかれては、新施設類型への転換が円滑にできるよう経過措置、施設基準、そして介護報酬の手当てについて、国に対し更なる働きかけをお願いするとともに、現在の検討状況など最新の情報を伺いたい。

**各県回答** 各県とも同様に、日医へ更なる対応をお願いする意見であった。

**鈴木日医常任理事** 介護療養病床の転換先となる新類型「介護医療院(仮称)」への転換の経過措置は、2018年度から2023年度末までの6年間となる見込みである。日医は一貫して、転換先が魅力的な選択肢となるよう主張してきたが、おおよそ認められたと感じている。

#### (5)地域リハビリテーション活動について

(佐賀県)

##### <提案要旨>

佐賀県では、国庫補助廃止後も継続して、県単独事業として「佐賀県在宅リハビリテーション支援センター事業」を実施してきた。市町村での介護予防・日常生活支援総合事業の中に「地域リハビリテーション活動支援事業」が追加されているが、現行の事業との関わりや、県行政の関与の範囲等が明確ではない。

各県における地域リハビリテーション活動の取組み状況を伺いたい。また、今後の動向について、日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 宮崎県も、佐賀県と同様に国庫補助廃止後も県単独事業として「宮崎県寝たきり予防推進事業」を実施していた。本会が県の委託を受け、県内7広域支援センターで実施していたが、平成27年度に事業終期を迎えたこともあり、28年度から止むなく事業終了となったことを報告した。また、熊本県からは、県医に事務局を置く「熊本地域リハビリテーション支援センター」、県内17か所の医療機関が県からの指定を受けて運営する「地域リハビリテーション広域支援センター」に加え、市町村が実施する「地域リハビリテーション活動支援事業」へのリハ職の関与を推進するため、今年度より新たに「地域密着リハビリテーションセンター」の指定が開始され、リハビリテーション推進体制の三層構造化を図ったことが報告された。いずれのセンターにも県から補助金が交付されているとのことである。

**鈴木日医常任理事** 地域全体で高齢者や障害者を支えるという地域リハビリテーションの考え方は、まさに「地域包括ケアシステム」の概念と重なっている。リハビリの職種を含めた多職種を取りまとめることが医師会の役割であるので、各県とも、リハビリテーション支援センターを復活・継続させていただきたい。

#### (6)特別養護老人ホーム(特養)の入居資格(要介護度)について(宮崎県)

##### <提案要旨>

平成27年の介護報酬改定により、特養の入居条件が要介護3以上へ変更された。要介護1、2でも市町村が認めれば入居できることになっているが、実際には認められにくいよ

うである。

入居資格の制限を緩和すべきと考えるが、各県の意見を伺いたい。また、日医には要介護3以上の条件がついた経緯を伺いたい。

**各県回答** 特養入居待機者の状況など、地域の特性によっても違いがあるとの意見が出された。各県とも、市町村には特列入居の基準を明確に示していただきたいとの意見であった。

**鈴木日医常任理事** 日医としては、要介護1、2でも必要であれば入居が認められるという特例が担保されていることを前提に、改定を認めた。市町村で適切な対応が行われるよう、日医でも状況把握に努めたい。また、特列入所の判断では、主治医意見書の情報も重要な要素になることを、かかりつけ医には認識していただきたい。

#### (7) 居住系施設における施設看護師の医療行為について(宮崎県)

##### <提案要旨>

有料老人ホームやグループホームなど居住系の介護施設では、点滴治療を行う際に、終了時の抜針を施設の看護師に依頼しても拒否する施設が多い。そのために、医師や訪問看護師が2回訪問しなければならない。少ない医療人材を効果的に活用するためには、施設看護師の医療行為への関与をもっと認めていいのではないかと考える。

各県の状況と日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 施設看護師は、医療機関の看護師と同様に、医師の指示下で一定の医療行為を行うことが可能とされているが、各県からは責任の問題等で積極的でない施設もあるとの現状が報告された。施設の理解を得ながら、緊急時の対応などを事前に検討することが必要であるとの意見も出された。

**鈴木日医常任理事** 緊急事態の対応も含め、

予め施設と医師で協議して、施設側の理解を得られるよう努めていただきたい。

#### (8) 改正道路交通法に対する医師会の対応について(長崎県)

##### <提案要旨>

2017年3月の改正道路交通法で、高齢運転者の認知症に係る対策が強化され、運転免許更新時の検査で認知症の疑いがあると判断された75歳以上のすべての運転者に、専門医または主治医の診断書の提出が義務付けられ、診断書により免許の取り消し等の判断がなされる。本来なら医師の診断書に加え、本人の技量や判断能力なども考慮し、最終的判断は警察署が行うべきと考える。

また、認知症の診断方法について一定の見解がなく、専門でない主治医には、認知症の診断は困難である一方、全てを専門医で対応するとすると、負担が大きくなる。

本改正について、各県および日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 各県から、診断にかかる費用の問題、認知症でないとして診断した高齢運転者が交通事故を起こした場合に発生する責任の問題などを危惧しているとの意見が出された。鹿児島県からは、運転免許の取り消し処分または停止処分を決定するのはあくまで公安委員会であり、直接的な責任は医師にないことを県警に確認したことが報告された。

**鈴木日医常任理事** 診断書を作成することで、通常、医師の刑事責任が問われることはないかと警察庁に確認している。また、費用については、警察庁と厚労省の協議により、診断書の作成料を除いて、通常の保険診療と同様の取扱いになる方向で固まりつつある。3月上旬に、かかりつけ医向けの診断書作成の手引きを提示するので参考にさせていただきたい。

**(9)新しい地域支援事業の推進について**

(熊本県)

**<提案要旨>**

市町村が実施する地域支援事業について、市町村間で温度差を感じる。これを少しでも解消するために、各市町村行政と郡市医が連携へ向けてさらに努力すべきである。日医からは厚労省に対し、県および市町村行政を指導していただくよう、提言をお願いしたい。各県および日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 各県とも賛同の意見であり、県では継続的に郡市医と市町村の連携を支援し、

事業の進捗を把握する必要があるとの意見が出された。

**鈴木日医常任理事** 地域支援事業が円滑に実施されるためには、郡市医から積極的に市町村に働きかけていくことが重要である。地域包括ケアシステムの構築に向け、医師会と行政が車の両輪となり、地域支援事業を推進していかなければならない。

出席者一立元・荒木・金丸・石川常任理事，  
鳥井元課長補佐

## 医療事故調査制度

### 宮崎県医師会 相談窓口

宮崎県医師会は支援団体として、県内の医療機関をサポートいたします。

医療事故の判断に迷った時、また、医療事故と判断した時は、宮崎県医師会までご連絡ください。

**宮崎県医師会 電話 0985-22-5118**

**【受付時間】**

平日の8時30分から18時、土曜日8時30分から12時30分の時間帯は、県医師会事務局の代表電話(0985-22-5118)で対応いたします。

時間外または日曜祝祭日等県医師会が対応できない場合は、国が指定した東京の医療事故調査・支援センター相談専門電話(03-3434-1110)にご連絡ください。

**【その他】**

この制度は、医療事故の再発防止により医療の安全を確保することを目的にした制度です。対象事案を報告するか否かについては、医療機関の管理者が組織として判断することになっており、ご遺族から医療事故調査・支援センターに直接報告や調査依頼をする仕組みではありません。



## あなたできますか？

—平成27年度 医師国家試験問題より—

(解答は69ページ)

- 1 旅客機の客室内が急に減圧した場合に上から落ちて来る酸素マスクを、幼児より先に同伴の親が装着するよう勧められている理由はどれか。
  - a 親がやり方を子どもに示すため。
  - b 小児は成人より減圧症に強いから。
  - c 小児の脳は成人より低酸素に耐えるから。
  - d 親が意識を失えば子どもを助けられないから。
  - e 幼児用酸素マスクが配られるのを待たなければならぬから。
- 2 左卵巣静脈が合流するのはどれか。
  - a 腎静脈
  - b 下大静脈
  - c 子宮静脈
  - d 外腸骨静脈
  - e 内腸骨静脈
- 3 排尿障害の診断で、まず行うのはどれか。
  - a 遺伝子検査
  - b 神経伝導検査
  - c 膀胱内視鏡検査
  - d 腹部超音波検査
  - e 腹部エックス線撮影
- 4 外科的切除が標準治療となるのはどれか。
  - a 乳腺症
  - b 女性化乳房
  - c 乳腺線維腺腫
  - d 乳腺葉状腫瘍
  - e 乳腺乳管内乳頭腫
- 5 急性腎不全で血液透析を行うべき検査値はどれか。
  - a 血清尿酸10mg/dL
  - b 血清尿素窒素38mg/dL
  - c 血清カリウム7.0mEq/L
  - d 動脈血 $\text{HCO}_3^-$ 20mEq/L
  - e 血清クレアチニン1.8mg/dL
- 6 入院中の高齢者が夜間のせん妄を発症したとき、せん妄を増悪させるのはどれか。
  - a 家族との面会を勧めること
  - b 日中の自然光を採り入れること
  - c 夜間は病室を真っ暗にすること
  - d 病室にカレンダーを掲示すること
  - e 時計を大きな文字盤のものにすること
- 7 尿道カテーテル留置の目的で最も適切なものはどれか。
  - a 尿路感染の予防
  - b 介護負担の軽減
  - c 尿蛋白量の測定
  - d 患者の長期安静保持
  - e 水腎症を伴う慢性尿閉の治療
- 8 アンドロゲン受容体蛋白質のポリグルタミン部分が異常に長くなるのが原因で起こる疾患はどれか。
  - a Huntington病
  - b 球脊髄性筋萎縮症
  - c Machado-Joseph病
  - d 筋強直性ジストロフィー
  - e Charcot-Marie-Tooth病
- 9 褥瘡の発生に**関与しない**のはどれか。
  - a 低栄養
  - b 関節拘縮
  - c 知覚過敏
  - d 皮膚の乾燥
  - e 全身麻酔下での手術
- 10 気胸の原因となりにくいのはどれか。
  - a 肺嚢胞
  - b 肋骨骨折
  - c 人工呼吸
  - d 急性膿胸
  - e 鎖骨下静脈穿刺

## 日医インターネットニュースから

### ■医学部での倫理教育の充実を

#### － 医学部生暴行事件で横倉会長 －

女性に乱暴した疑いで医学部の学生が逮捕されるなどの事件が相次いでいることを受け、日本医師会の横倉義武会長は3月1日の記者会見で「医師を目指している者、若い研修中の医師らが事件を起こしたことは誠に遺憾であり、残念でならない。これは『医師の倫理』以前の問題だが、医師を目指す者には、さらに高い倫理観が求められる。入学してからの医学部でのさらなる倫理教育の充実が必要」と訴えた。

日医としては、会内の「会員の倫理・資質向上委員会」を中心に、医療倫理の教育体制などについて検討していく方針。

日医は昨年、8年ぶりに「医師の職業倫理指針」を改訂した。横倉会長は会見でこの点にも触れ「この指針では、医師の倫理観や、医師への信頼の基盤となる品位の保持など、十数項目の職業倫理上の課題を取り上げている。この指針は医科大や大学医学部にも届けた。これをぜひ、大学での倫理教育に活用していただきたい」と述べた。同指針は、今春、医科大や医学部を卒業する学生全員に配布する予定。

(平成29年3月3日)

### ■「メドポスト」の申込受付開始

#### － 日医ORCA管理機構 －

日本医師会ORCA管理機構は3月1日、医療機関同士が安全に医療文書を交換できるサービス「メドポスト(MEDPost)」の申し込み受付を始めた。厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠したサービスで、診療報酬の「検査・画像情報提供加算(退院患者の場合200点)」「電子的診療情報評価料(診療所30点)」を算定するための施設基準に対応している。サービス自体は4月1日から提供する。

メドポストは、日医の電子認証センターが発行しているICカード「医師資格証」に対応しているのも特徴。医師資格証は、HPKI(保健医療福祉分野の公開鍵基盤)の枠組みを使った医

師資格を証明するカード。

医師資格証がある場合、登録料(初回のみ)は無料で利用料は月額1000円から。医師資格証がない場合は登録料(5年ごと)3万円。利用料は月額2000円から。いずれも使用するデータ量に応じて利用料は変わる。

メドポストの企画・開発は日医が担った。石川広己常任理事は3月1日の記者会見で、メドポストの特徴について「医師資格証があれば、一般の回線を使ってセキュリティーの高い通信環境を構築してタイムスタンプ付き電子署名もできる。それほど費用をかけなくても、保険点数の付く医療情報のやりとりができる」と強調。さらに「比較的安い価格で運用できるので、全国の先生方に利用してもらいたい」と述べ、今後の普及への意欲を見せた。

(平成29年3月3日)

### ■医師の特性を明記したい

#### － 働き方改革実行計画で塩崎厚労相 －

塩崎恭久厚生労働相は3月9日の参院厚生労働委員会で、政府の働き方改革実現会議が3月末までにまとめる働き方改革の実行計画について「医師の特性なども踏まえ、実効性の上がる結論を実行計画に明記できるよう、引き続きしっかり取り組んでいきたい」と述べた。自民党の自見英子氏の質問に答えた。

自見氏は医師を「医師法に基づく応召義務がある」ほか「日々進歩する医療技術に追いつくための自己研鑽や研究が求められる特殊な職業」と位置付け、「医師の働き方改革の取り組みは、内閣府の働き方改革実現推進室とよく連携してほしい」と求めた。

塩崎厚労相は、自らが働き方改革実現会議の共同議長代理であることを述べた上で、加藤勝信働き方改革担当相と役割分担をしながら、「実態を見据えて『医師の特性を踏まえた』実行計画を目指す方針を示した。

### ●医師は、“労働者”に収まりきらず

自見氏は10日、メディアファックスの取材に応じ「応召義務、自己研鑽という2つの特殊性があ

り、医師が、いわゆる“労働者”の枠にすんなりと収まる職業ではないことを分かっていた」と述べた。働き方改革について「医師の職業人生の質の担保と、過重な働き方の是正の両輪が必要」とも語り、医師の働き方を規制した際に国民が受ける影響や、応召義務との関係についての議論が必要という考えも示した。

(平成29年 3 月14日)

## ■「かかりつけ医」の重要性高まる

### － 改正道交法施行 －

改正道路交通法が 3 月12日に施行され、75歳以上の高齢者が運転免許更新時に認知症の恐れあり(第1分類)と判定された場合、医師による診断が義務化された。第1分類と判定される高齢者は年間 5 万人を超えると予想される。専門医だけではとても対応しきれないと言われており、今後「かかりつけ医」の重要性がますます高まりそうだ。

今回の改正で第1分類と判定された高齢者は、都道府県公安委員会から、臨時適性検査を受けるか、主治医または専門医の診断書を提出するよう求められる。かかりつけ医の対応が求められる背景には、マンパワー不足だけでなく、国民の負担や不安もあるようだ。日医の松原謙二副会長は、今月 8 日の記者会見で「(第1分類と判定された高齢者が)見ず知らずの専門医のところで診断を受けるのは、かなりの負担がある。まず、かかりつけ医に相談していただくと安心する。かかりつけ医を通してもらい、かかりつけ医から専門医を紹介する形が国民にとって一番安心だろうと判断した」と説明した。

改正道交法の施行に合わせ、日医は「かかりつけ医向け認知症高齢者の運転免許更新に関する診断書作成の手引き」をまとめた。その中で「かかりつけ医には、基本的に患者が健康で安全な社会生活を送れるよう指導・支援する役割

が求められる」と記載。手引きの内容は、診断書作成の依頼があった場合の対応手順にとどまらず、自動車運転をやめた高齢者の心のケアを行う際の心構えなど、高齢者が社会の中で生活していくため、どのように対応・支援すべきかという点にまで及ぶ。

手引きの第1章「かかりつけ医の対応について」で、鳥取県医師会の渡辺憲副会長は「認知症の診断を行うケースにあっては、単に診断書を交付するのみならず、認知機能検査の結果が良くないことを説明し、公安委員会の審査において免許証の更新が認められない可能性が高いことを丁寧に伝えることが大切だ。患者から免許証の更新を断念する旨の申し出があった場合、診断書を作成しないで、運転免許証更新の手続きの取り下げを指導するのの一法だ」と解説している。

ただ、自動車を運転しなければ生活が成り立たないような地域もある。このため、手引きでは「高齢者が運転を続ける理由」をしっかりと検討して対応しなければ、的外れな対処となることもあると指摘。「かかりつけ医としては、それらを念頭に注意する必要がある」と促す。

また、かかりつけ医が患者やその家族と信頼関係を構築する重要性にも言及。「本人が納得し、運転を中止するためには、早い段階から本人だけでなく家族や周囲の関係者を含めての協議は大切であり、その場面において、信頼関係がしっかりと構築されているかかりつけ医からの説明は、大きな役割を果たす」と強調している。

手引きでは、高齢者が運転免許を取り消された時に「代替の交通手段、生きがいと一緒に考える」必要性にも触れている。8日の記者会見で、日医の鈴木邦彦常任理事は「(取り消された高齢者が)社会的に孤立しないよう、私たちも一緒になって取り組む必要がある」と話した。

(平成29年 3 月17日)

日医インターネットニュースは日本医師会ホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会 (<http://www.med.or.jp/>) > メンバーズ > 日医インターネットニュース

#### メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザー ID：会員ID番号(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角)

◆パスワード：生年月日の「西暦2桁, 月2桁, 日2桁」の6桁の数字(半角)

## 医師国保組合だより

### ～平成 29年度の保険料賦課について～

平成29年 4 月からの月額保険料について、次のとおり賦課することとなりましたので、お知らせします。(前年度と変更はありません。)

|                  | 医療給付費分保険料<br>(減額措置有り) | 後期高齢者支援金分<br>保険料 | 介護納付金分保険料<br>(40歳以上 65歳未満) |
|------------------|-----------------------|------------------|----------------------------|
| A 会員組合員          | 35,000円<br>(減額措置有り)   | 2,000円           | 3,500円                     |
| B 会員組合員          | 25,000円<br>(減額措置有り)   | 2,000円           | 3,500円                     |
| 家 族              | 3,500円                | 2,000円           | 3,500円                     |
| 高齢組合員<br>(75歳以上) | 3,000円                | —                | —                          |

### ～組合員の医療給付費分保険料減額措置について～

次の条件を満たす場合、減額措置を行っております。

前々年分の総収入金額が 5,000 万円未満、かつ課税所得金額が 2,000 万円未満の場合

#### 1 提出書類

- 1) 平成29年度保険料減額申請書
- 2) 平成27年分の総収入金額及び課税所得金額に関する証拠書類

#### 2 保険料減額表

| 区分 | 課 税 所 得 金 額         | 医 療 給 付 費 分 保 険 料 ( 月 額 ) |             |
|----|---------------------|---------------------------|-------------|
|    |                     | A 会 員 組 合 員               | B 会 員 組 合 員 |
| 1  | 1,700万円以上 2,000万円未満 | 33,000円                   | 23,000円     |
| 2  | 1,500万円以上 1,700万円未満 | 30,000円                   | 20,000円     |
| 3  | 1,300万円以上 1,500万円未満 | 27,000円                   | 18,000円     |
| 4  | 1,000万円以上 1,300万円未満 | 25,000円                   | 16,000円     |
| 5  | 800万円以上 1,000万円未満   | 23,000円                   | 15,000円     |
| 6  | 600万円以上 800万円未満     | 20,000円                   | 14,000円     |
| 7  | 400万円以上 600万円未満     | 17,000円                   | 13,000円     |
| 8  | 200万円以上 400万円未満     | 15,000円                   | 12,000円     |
| 9  | 100万円以上 200万円未満     | 13,000円                   | 10,000円     |
| 10 | 50万円以上 100万円未満      | 10,000円                   | 8,000円      |
| 11 | 50万円未満              | 5,000円                    | 5,000円      |

## 医師国保組合だより

### 国民健康保険法第 116条にかかる届出のお願い

## 修学のため親元を離れて住む方は届出が必要です (ただし、住民票を移した場合のみ)

#### 国保法第116条 修学中の被保険者の特例について

修学のため親元を離れ、学校所在地に生活の本拠地を移す例は非常に多くみられますが、そのような学生は一般的に所得がなく、保険料負担能力を欠くため、学校所在地域保険者の被保険者とすると、学生の比率の高い市町村に対しては財政的に影響を与えることになります。

また、医療費の負担は本来親元の世帯の負担となるべきものであることから、国保の適用については、このような場合は親元に住所があり、親元の世帯に属するものとみなしています。

国保法第116条の規定はこのような修学中の被保険者の特例規定です。

また、この場合、同法施行規則第 5 条の規定により組合への届出が必要です。

#### ◇手続きについて◇

|   | 事 由                                       | 提 出 書 類                                             |
|---|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 1 | 新たに修学のため親元を離れて住むご家族がいる場合<br>(住民票を移した場合のみ) | 「第 116条該当届」<br>「在学証明書」                              |
| 2 | これまで、第116条該当の届出を行い、毎年、在学証明書を提出している場合      |                                                     |
|   | ①届出をした学校に引き続き修学する                         | 「在学証明書」                                             |
|   | ②届出をした学校と異なる学校に新たに修学する                    | 「第 116条該当届」<br>「第 116条非該当届」<br>「在学証明書」              |
|   | ③住民票を組合員の住所に戻した                           | 「第 116条非該当届」                                        |
| 3 | ④卒業・就職して新しい保険に加入する                        | 「資格喪失届」<br>「当組合の被保険者証」<br>「次に加入の保険の加入証明書又は被保険者証の写し」 |
|   | 2に該当していなかったが、就職等で新しい保険に加入する(又は加入した)       | 「資格喪失届」<br>「当組合の被保険者証」<br>「次に加入の保険の加入証明書又は被保険者証の写し」 |

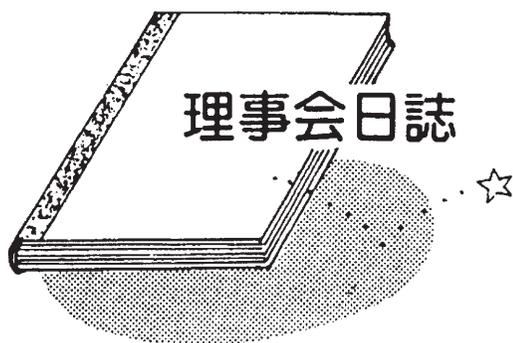
#### 《注 記》

- 1) 在学証明書は、在学中、毎年4月1日以降発行のものを提出ください。
- 2) 新入学の場合は、入学式終了直後から在学証明書が発行されます。  
(※学生証や入寮許可証等は認められません)

#### (お知らせ)

届出に関する各種様式は、宮崎県医師国民健康保険組合ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.miyazaki.med.or.jp/kokuho/>



平成29年2月7日(火)第30回常任理事協議会

#### 医師会関係

##### (議決事項)

#### 1. 本会外の役員等の推薦について

①県地域医療対策協議会委員等の推薦について

→医師確保の推進や関係機関との連携を通じて、県内の地域医療提供体制の整備充実を図ることを目的に設置される協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、協議会委員に河野会長、幹事会委員に池井常任理事を推薦することが承認された。

#### 2. 3/2(木)(JA-AZM)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会いについて

2医療機関を対象に行われる個別指導で、小牧常任理事を立会人として派遣することが承認された。

#### 3. 3/2(木)(JA-AZM)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の新規個別指導等の実施に係る立会いについて

2医療機関を対象に行われる個別指導で、小牧常任理事を立会人として派遣することが承認された。

#### 4. 社保レセプトデータ抽出の協力のお願いについて

南那珂医師会の外山望先生を通じて、県皮膚科医会が行う帯状疱疹の疫学調査に対する協力依頼があり、県医師会として、支払基金が保有するデータ(患者数)の提出要請を行うことが承認された。

##### (報告事項)

#### 1. 週間報告について

#### 2. 1月末日現在の会員数について

#### 3. 2/4(土)(熊本)九医連常任委員会について

#### 4. 2/4(土)(熊本)九医連医療事故調査制度担当理事連絡協議会について

#### 5. 2/6(月)(県医)医療安全対策セミナーについて

#### 6. 2/4(土)(熊本)九医連各種協議会(医療保険・地域医療・介護保険)について

#### 7. 2/1(水)(県庁)県歯科保健推進協議会について

#### 8. 2/7(火)(県医)治験審査委員会について

#### 9. 2/3(金)(県医)認知症サポート医フォローアップ研修会について

#### 10. 2/2(木)(県庁)県肝炎対策懇話会について

#### 医師連盟関係

##### (議決事項)

#### 1. 2/28(火)(東京)敬人会夕食勉強会のご案内について

今年度3回目の勉強会ではあるが、当日、本会の常任理事協議会等とも重なることから、今回は協力を見送ることが承認された。

平成29年2月14日(火)第31回常任理事協議会

#### 医師会関係

##### (議決事項)

#### 1. 後援・共催名義等使用許可について

①11/11(土)・12(日)(シーガイア)九州理学療法士・作業療法士合同学会2017in宮崎

の後援依頼について

→『ALIVE』〜リハビリテーション思想の“いま”を迫る』をテーマに理学療法士会及び作業療法士会が合同で開催する九州ブロックの学会で、名義後援を行うことが承認された。

## 2. 「遷延性意識障がい」のある方々の実態調査について

県内の遷延性意識障がい(いわゆる植物状態にある方)の実態を把握することにより、今後の福祉施策の基礎資料とすることを目的とするもので、調査の実施及び郡市医師会への周知に協力することが承認された。

## 3. 講師の派遣依頼について

延岡市医師会の例会に合わせ開催する「医師資格証の普及と促進に向けた説明会」の講師派遣依頼で、立元常任理事を派遣することが承認された。

## 4. 4 / 8(土)(シーガイア)平成29年度宮崎県臨床研修説明会・講演会／新研修医祝賀会～ALL Miyazaki 研修医スタートアップセミナー&ウェルカムパーティ～について

臨床研修1年目を対象とした新研修医保険診療等説明会、1・2年目を対象とした研修医合同グループワーク(新規)、県臨床研修講演会及び新研修医祝賀会について検討が行われ、一部時間を見直した上で、関係者に案内することが承認された。

## 5. 禁煙及び受動喫煙防止対策の推進に関する要望について

近く国会に健康増進法改定案が提出される予定であることから、本県においてより一層の禁煙及び受動喫煙防止対策を進めるため、県議会に対し要望書を提出することが承認された。

## 6. 3 / 17(金)(日医)平成28年度都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会の開催について

研修管理システム及び専門医に係る共通講習等の説明に加え、生涯教育に関する諸問題について協議する連絡協議会で、出席者については、学術・生涯教育担当理事の中で人選することが承認された。

## 7. 事業場における治療と職業生活の両立支援に係るポスターの掲示依頼について

疾病を抱えた方々が、適切な治療を受けながら仕事を続けることを支援する事業で、ポスターの掲示依頼を含め県内の医療機関に案内することが承認された。

## 8. 「日本医師会認定産業医制度研修会」の共催のお願いについて

平成29年度、宮崎産業保健総合支援センターが企画する26の研修会について、本会として共催すると共に日本医師会認定産業医制度の研修会として申請することが承認された。

## (報告事項)

1. 2 / 8(水)(県医)日医医療政策シンポジウムについて
2. 2 / 8(水)(支払基金)支払基金幹事会について
3. 2 / 10(金)(県庁)県社会福祉審議会について
4. 2 / 10(金)(ホテルメリージュ延岡)東九州メディカルバレー構想特別セミナーについて
5. 2 / 9(木)(ホテルメリージュ)県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会について
6. 2 / 10(金)(日医)日医勤務医委員会について
7. 2 / 11(土)・12(日)(沖縄)日本プライマリ・ケア学会九州支部総会について

**医師連盟関係****(議決事項)****1. 受動喫煙防止対策について地元国会議員への働きかけについて**

第193回通常国会に提出予定の健康増進法改定案(受動喫煙防止対策の強化)が速やかに成立するよう本県選出国会議員へ働きかけを求めるもので、日医連の要請に応じると共にその方法については河野委員長に一任することが承認された。

平成29年2月21日(火)第32回常任理事協議会

**医師会関係****(議決事項)****1. 3/15(水)(県電ホール)平成28年度宮崎県愛護児童対策地域協議会代表者会議の開催について**

代表者会議に引き続き児童虐待防止セミナーが開催される会で、濱田副会長が出席することが承認された。

**2. 本会外の役員等の推薦について****①生活保護法に基づく県本庁嘱託医等の推薦について**

→任期満了に伴う推薦依頼で、県本庁嘱託医(精神科)1名と郡部福祉事務所精神科嘱託医5名の計6名(一部重任のため)について、再任の意向が確認できたことから、県精神科医会の意向を確認した上で、引き続き嘱託医をお願いすることが承認された。

**②宮崎県衛生環境研究所調査研究評価委員会委員の推薦について**

→効率的・効果的な調査研究を実施することを目的に設置されている評価委員会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き高村常任理事を推薦することが承認された。

認められた。

**3. 後援・共催名義等使用許可について****①「看護の日」行事「みやざきナースToday 2017」の名義後援について**

→県民に「看護」について考える機会を提供すると共に、看護のイメージアップを図り、人材の確保定着と「看護の心」を伝えることを目的に、県内7地区で開催されるイベントで、名義後援を行うことが承認された。

**②7/8(土)(宮崎市民文化ホール)「第7回いのちの講演会」名義後援の申請について**

→「いのちをぎゅっと抱きしめて～生まれるということ、生きるということ～」をテーマに開催される講演会で、名義後援を行うことが承認された。

**4. 2/25(土)(県医)宮崎県医師会創立128周年記念医学会について**

進行及び座長を含めた役割分担等の最終確認が行われると共に、会員及び各郡市医師会に対し、再度ファックス、メール等で参加奨励を行うことが承認された。

**5. 3/25(土)(東京)九州医師会連合会第362回常任委員会の開催について**

日医臨時代議員会の前日に開催される常任委員会で、河野会長の出席と協議事項等は河野会長に一任することが承認された。

**6. 3/26(日)(日医)九州ブロック日医代議員連絡会議の開催について**

日医臨時代議員会の30分前に開催される九州ブロック会議で、4名の日医代議員(河野会長、富田・濱田副会長、立元常任理事)の出席が承認された。

**7. 九州ブロック日医代議員連絡会議(6月3日(土)熊本市)における日医各種委員会の報告希望委員会について**

会議の対象者となる4名の日医代議員

(河野会長、富田・濱田副会長、立元常任理事))を中心に、日本医師会が設置し九州ブロックが推薦する委員が所属する26委員会の中から、報告を希望する委員会を選考することが承認された。

#### (報告事項)

1. 週間報告について
2. 2/15(水)(東京)社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会について
3. 2/15(水)(県庁)県メディカルコントロール協議会について
4. 2/17(金)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について
5. 2/19(日)(日医)日医母子保健講習会について
6. 2/18(土)(県医)かかりつけ医認知症対応力向上研修会について
7. 2/19(日)(県医)県民健康セミナーについて
8. 2/17(金)(日医)日医女性医師支援事業連絡協議会について
9. 2/15(水)(県庁)県訪問看護推進協議会について
10. 2/18(土)(宮大医学部)宮崎救急医学会について
11. 2/21(火)(県庁)県医療費適正化計画策定検討委員会について
12. 2/21(火)(県庁)県ナースセンター事業運営委員会について
13. 2/17(金)(東京)医療関連サービス振興会シンポジウムについて
14. 2/20(月)(県医)介護保険に関する主治医研修会について
15. 2/15(水)(県医)日医認定産業医制度関係小委員会について
16. 2/16(木)(県医)宮崎産業保健総合支援センター運営協議会について

17. 2/14(火)(県電ホール)公害健康被害認定審査会・公害問題検討会について
18. 2/20(月)(県医)県麻しん風しん対策推進会議・広域化検討会議について
19. 2/17(金)・18(土)(県医)人体シミュレータを用いた在宅医療研修会について

平成29年 2月28日(火)第12回全理事協議会

#### 医師会関係

#### (議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について
  - ①宮崎県歯科保健推進協議会委員の推薦について  
→生涯にわたる歯・口腔の健康づくりに関する施策を総合的に推進することによって、県民の健康増進に寄与することを目的に設置される協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き荒木常任理事を推薦することが承認された。
  - ②宮崎県国民健康保険運営協議会委員の推薦について  
→国民健康保険法の一部改正に伴い、平成30年以降の国民健康保険事業の運営に関する事項(国保運営方針等)を審議するために設置される協議会で、佐藤理事を推薦することが承認された。
2. 平成29年度宮崎県医師会事業計画(案)について  
昨年の事業計画をもとに重点項目及び具体的事項の確認が行われ、一部修正を加えると共に3月14日の理事会提出に向け、引き続き確認作業を進めることが承認された。
3. 平成29年度収支予算(案)について  
平成29年度、会館修繕計画に基づく改修及び第2回目の会館建設協力債の償還

が行われる等の説明があり、経常収益計4億4,430万3千円、経常費用計4億2,439万9千円、当期経常増減額1,990万4千円からなる予算(案)を3月14日の理事会に上程することが承認された。

#### 4. 会費減免申請について

疾病による会費減免1名(日医・県医)及び在籍20年以上で満80歳に達する高齢による会費減免(県医)3名が承認された。

#### 5. 平成28年度健康教育事業費補助金交付申請について

各郡市医師会及び専門分科医会等が行う健康教育事業を補助することで、地域の取組みを促進すると共に県民の健康増進に寄与することを目的に実施される事業で、県眼科医会及び県皮膚科医会に対して補助金を交付することが承認された。

#### 6. 5/10(水)(日医)平成29年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会の開催について

勤務医の抱える諸問題に対し、地域の実情を踏まえより実態に即した現状を把握・検討するために開催される協議会で、岩村理事が出席することが承認された。また、今回は「新たな専門医の仕組み」を協議することから、メーリングリスト等を用いて役員に意見を求めることとなった。

#### 7. 平成28年度九州各県医師会医療情報システム担当理事連絡協議会の開催について

九医連担当の熊本で開催される連絡協議会で、当日、諸行事が重なっていることから、出席者については情報システム担当役員で調整することが承認された。

#### 8. 3・4月の行事予定について

3月の追加行事について確認が行われると共に、県医師会の定例代議員会を6月17日(土)に開催すべく調整を進めている旨の報告が行われた。

#### (報告事項)

1. 2/25(土)(宮観ホテル)県内医師会病院連絡協議会について
2. 2/27(月)(宮大医学部)県がん診療連携協議会について
3. 2/24(金)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
4. 2/23(木)(延岡市医師会病院)延岡市医師会例会について
5. 2/25(土)(県医)創立128周年記念医学会について
6. 2/28(火)(県庁)地方公務員災害補償基金県支部審査会について
7. 2/22(水)(県庁)県地域・職域連携推進協議部会について
8. 2/22(水)(県庁)地域のちから・介護予防推進事業に関する連絡会について
9. 2/23(木)(日向市)社会保険医療担当者の個別指導について
10. 2/7(火)(県庁)県献血推進協議会について
11. 2/22(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について
12. 2/4(土)(県医)健康スポーツ医学セミナーについて
13. 2/17(金)(県医)・2/24(金)(県医)広報委員会について
14. 2/18(土)(宮観ホテル)勤務医部会理事会・勤務医部会後期講演会について
15. 2/20(月)(県庁)県精神科救急医療システム連絡調整委員会について
16. 2/20(月)(宮大医学部)宮大医学部医の倫理委員会について
17. 2/9(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の新規個別指導について
18. 2/11(土)・12(日)(日医)日医医療情報システム協議会について

19. 2/14(火)(県庁)県母子保健運営協議会について

20. その他

- ① 2/23(木)(日医)医療事故調査制度に係る支援団体統括者セミナー

医師協同組合理事・運営委員合同協議会  
(報告事項)

1. 2/28(火)(県医)医協理事会について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 3/18(土)(JA-AZM)総務・支部長合同会議の開催について

平成29年度の事業方針及び国会議員候補予定者選考について協議する合同会議で、河野委員長が出席することが承認された。

2. 4/9(日)(宮観ホテル)政策集団水月会宮崎セミナーのご案内について

石破 茂 元自民党幹事長を会長に、古川 禎久衆議院議員が事務総長を務める政策集団で、宮崎セミナーの開催に協力することが承認された。

(報告事項)

1. 2/25(土)(東京)日医連医政活動研究会について

### 3月のベストセラー(宮崎県)

集計：2017年3月1日～3月25日

|    |                     |         |          |
|----|---------------------|---------|----------|
| 1  | 騎士団長殺し第一部 顕れるアイデア編  | 村 上 春 樹 | 新 潮 社    |
| 2  | 騎士団長殺し第二部 遷ろうメタファー編 | 村 上 春 樹 | 新 潮 社    |
| 3  | 応仁の乱                | 呉 座 勇 一 | 中央公論新社   |
| 4  | ビブリア古書堂の事件手帖⑦       | 三 上 延   | KADOKAWA |
| 5  | はじめての人のための3000円投資生活 | 横 山 光 昭 | ア ス コ ム  |
| 6  | 旅立ちぬ                | 佐 伯 泰 英 | 光 文 社    |
| 7  | こころの匙加減             | 高 橋 幸 枝 | 飛 鳥 新 社  |
| 8  | コーヒーが冷めないうちに        | 川 口 俊 和 | サンマーク出版  |
| 9  | 蜜蜂と遠雷               | 恩 田 陸   | 幻 冬 舎    |
| 10 | 火花                  | 又 吉 直 樹 | 文 藝 春 秋  |

# 県 医 の 動 き

(3月)

|    |                                                                                                                                                                                                                          |    |                                                                                                                         |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | (東京) 社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会(会長)<br>(日医) 都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会(金丸常任理事)<br>都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会(日医TV会議)(富田副会長)<br>(日医) 日医救急災害医療対策委員会(佐々木常任理事)<br>医学会誌編集委員会(濱田副会長他)                                                         | 14 | 宮大医学部附属病院医師研修管理委員会(会長)<br>第4回理事会(会長他)<br>第13回全理事協議会(会長他)                                                                |
| 2  | 社会保険医療担当者の個別指導(小牧常任理事)<br>社会保険医療担当者の新規個別指導(小牧常任理事)<br>(小林保健所) ロコモティブシンドローム予防講演会(帖佐理事)                                                                                                                                    | 15 | 県要保護児童対策地域協議会代表者会議(濱田副会長)<br>(日医) 日医学術推進会議(会長)<br>県産婦人科医会 市町村との産婦健診・聴覚検査に関する打合せ(濱田副会長)                                  |
| 4  | ICLS指導者養成ワークショップ<br>県産婦人科医会ひむかセミナー(濱田副会長)<br>(長崎)九州医師協同組合連合会購買・保険部会(富田理事長他)<br>各郡市内科医会長会(小牧常任理事)                                                                                                                         | 16 | 県高次脳機能障がい支援連絡会議(帖佐理事)<br>宮大医学部医の倫理委員会(糸数理事)<br>県健康づくり推進協議会(富田副会長)<br>県アイバンク協合理事会(会長)<br>道交法改正による認知症対応に関する研修会(TV会議)(会長他) |
| 5  | ACLS研修会<br>(長崎)九州医師協同組合連合会購買・保険部会(富田理事長他)<br>県産婦人科医会ひむかセミナー(濱田副会長)<br>(福岡)レジナビフェア福岡(金丸常任理事)                                                                                                                              | 17 | 都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会(日医TV会議)(小牧常任理事)<br>県防災会議(立元常任理事)<br>医師国保組合通常組合会(秦理事長他)                                             |
| 6  | 県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会(小牧常任理事)<br>県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会(濱田副会長他)                                                                                                                                                             | 18 | 自民党県連総務・支部長合同会議(河野委員長)<br>母体保護法指定医師研修会(濱田副会長他)<br>病院部会・医療法人部会医療従事者研修会                                                   |
| 7  | (福岡)九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会実行委員会(金丸常任理事)<br>第33回常任理事協議会(会長他)<br>母体保護法指定医師審査委員会(濱田副会長他)                                                                                                                                      | 19 | 医療メディエーター研修会・復習編(富田理事長他)<br>医師国保組合歩こう会(秦理事長他)<br>(日医) 日医学校保健講習会(高村常任理事)                                                 |
| 8  | 支払基金幹事会(会長)                                                                                                                                                                                                              | 20 | 医療メディエーター研修会・復習編(富田理事長他)                                                                                                |
| 9  | 治験審査委員会(富田副会長他)<br>在宅医療研修企画小委員会(石川常任理事)<br>県産婦人科医会全理事会(濱田副会長他)<br>県産婦人科医会法制・倫理委員会(濱田副会長他)                                                                                                                                | 21 | (東京) 社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会(会長)<br>県地域医療支援機構代表者会議(金丸常任理事)<br>医協打合せ会(立元副理事長)<br>治験理事会(富田副会長他)<br>第34回常任理事協議会(富田副会長他)    |
| 10 | (福岡) 全国国保組合協会九州支部幹事会・総会(秦理事長)<br>(日医) 日医公衆衛生委員会(吉田常任理事)<br>県准看護師試験委員会(立元常任理事他)<br>糖尿病性腎症重症化予防プログラム策定に向けたデータ分析事業会議(金丸常任理事)                                                                                                | 22 | 県個人情報保護審議会(濱田副会長)<br>県移植推進財団理事会(濱田副会長)<br>地域医療現場における働きやすい環境を考える会検討会(荒木常任理事)<br>県産婦人科医会 市町村との産婦健診・聴覚検査に関する打合せ(濱田副会長)     |
| 11 | (福岡) 全国国保組合協会九州支部幹事会・総会(秦理事長)<br>(日医) 日医公衆衛生委員会(吉田常任理事)<br>県准看護師試験委員会(立元常任理事他)<br>糖尿病性腎症重症化予防プログラム策定に向けたデータ分析事業会議(金丸常任理事)                                                                                                | 23 | 県外科医会全理事会(岩村理事)                                                                                                         |
| 12 | 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会(金丸常任理事)<br>宮崎JRAT研修会(佐々木常任理事)<br>県認知症高齢者グループホーム連絡協議会総会・全体研修会(金丸常任理事)<br>臨床検査精度管理調査勉強会<br>地域医療構想自院データ分析講習会(富田副会長)<br>(延岡) 医師クラーク育成・スキルアップ研修会<br>県内科医会総会・講演会(小牧常任理事)<br>2020.30実現をめざす地区懇談会(荒木常任理事他) | 24 | (西諸医師会館) 西諸医師会臨時総会<br>広報委員会(荒木常任理事他)<br>宮崎市産婦健康診査事業事前研修会(濱田副会長)                                                         |
| 13 | 宮崎JRAT研修会(佐々木常任理事)<br>医師クラーク育成・スキルアップ研修会<br>(日医) 都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会・学術大会(立元常任理事)                                                                                                                           | 25 | HTLV-1母子感染対策事業研修会<br>(東京) 全国医師会医療秘書学院連絡協議会常任委員会(富田副会長)<br>(東京) 全国医師会医療秘書学院連絡協議会運営委員会(富田副会長)<br>(東京) 九医連常任委員会(会長)        |
|    | 広報委員会(荒木常任理事他)<br>県周産期医療協議会(濱田副会長他)                                                                                                                                                                                      | 26 | (日医) 九州ブロック日医代議員連絡会議(会長他)<br>(日医) 日医臨時代議員会(会長他)                                                                         |
|    |                                                                                                                                                                                                                          | 28 | 県医療審議会医療法人等部会(富田副会長)<br>九州地方社会保険医療協議会宮崎部会(濱田副会長)<br>医協理事会(富田理事長他)<br>県医連常任執行委員会(河野委員長他)<br>第35回常任理事協議会(会長他)             |
|    |                                                                                                                                                                                                                          | 29 | 労災診療指導委員会(川野理事他)<br>県立病院事業評価委員会(会長)<br>県医療勤務環境改善支援センター運営協議会(池井常任理事)                                                     |
|    |                                                                                                                                                                                                                          | 30 | (日医) 日医医療IT委員会(荒木常任理事)                                                                                                  |

## 追 悼 の こ と ば

延岡医師会

清 永

勉 先生

(昭和24年 8月20日生 67歳)

## 弔 辞

本日、亡き清永勉先生のご葬儀が執り行われるにあたり、延岡市医師会を代表いたしまして、謹んで哀悼の意を表し、お別れの言葉を申し上げます。

先生は、少し体調を崩されておられましたが、比較のお元気で診療にも携わっていると伺いしておりました。去る1月25日、お亡くなりになったとの知らせに、只々驚き、そして今は、私共医師会の会員を失った悲しみと、さみしさで申し上げる言葉もございません。

ましてはご家族をはじめ、ご遺族の方々、先生を慕われる多くの皆様方のお悲しみは如何ばかりかとお察し申し上げ、衷心よりお悔やみ申し上げます。

先生は、昭和24年8月20日に延岡市で生を受けられました。昭和56年に福岡大学医学部をご卒業され、その後、久留米大学医学部第二外科へ入局後、ご研鑽を積まれまして、平成4年から、地域医療に従事するため医療法人伸和会共立病院にお帰りになられました。

今は亡き、お父様である先代理事長の清永恕先生、現理事長の赤須巖先生方と共に、昼夜を問わず、地域医療の充実のために、献身的な診療に携わってこられました。

その後、平成6年10月からは医療法人伸和会の理事、並びに共立病院の副院長に就任。平成10年8月からは院長へと就任し、その重責を担われました。

先生は、温厚かつ誠実なお人柄であり、ご多忙な診療の傍ら、医師会事業にも目を向けられまして、平成6年4月から平成10年3月までの4年間、延岡市医師会理事となられました。

先生は、本会理事として公衆衛生並びに医師会病院の担当となられました。当時は、医師会病院内に検査センター部門があり、その運営も医師会が行っておりましたが、経営上の理由から、民間へ業務委託を検討する事になり、先生は担当理事として、その中心となり重責を担われました。

さらには、宮崎県医師会におきましては、平成14年から13年間の長きに亘りまして、労災部会の理事としてご尽力をいただきました。

また一方では、平成5年から平成27年までの22年間に亘り、延岡市立旭小学校の学校医として多数の児童の保健衛生、並びに健康管理の指導教育にもご尽力を賜りました。

本日、先生とお別れするにあたり、先生がこれまで地域医療に対し尽くしてこられたご功績を忘れることなく、先生のお示しいただきました医療、更には医師会運営に取り組む真摯なお姿を心に刻みながら、会員一同、地域医療の発展向上に一層の努力をして行く所存でございます。

先生の温顔に再び接することは出来ませんが、ご家族をはじめ、ご遺族の皆様のご安泰と、そして、医療法人伸和会共立病院のご繁栄をお見守りいただきますようお願い申し上げます、黄泉路が平穏でありますことを心よりお祈りし、お別れの言葉といたします。

清永勉先生、どうぞ安らかに眠りください。

平成29年 1月28日

延 岡 市 医 師 会

会 長 吉 田 建 世

医療勤務環境改善支援センター

## ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成29年 3月13日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報がよせられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

## 1. 求職者登録数 6人

## 1) 男性医師求職登録数 5人 (人)

| 希望診療科目 | 求職数 | 常勤 | 非常勤 |
|--------|-----|----|-----|
| 内科     | 3   | 2  | 1   |
| 老健     | 2   | 1  | 1   |

## 2) 女性医師求職登録数 1人 (人)

| 希望診療科目 | 求職数 | 常勤 | 非常勤 |
|--------|-----|----|-----|
| 形成外科   | 1   | 0  | 1   |

## 2. 斡旋成立件数 55人 (人)

|            | 男性医師 | 女性医師 | 合計 |
|------------|------|------|----|
| 平成28年度     | 3    | 1    | 4  |
| 平成16年度から累計 | 40   | 15   | 55 |

## 3. 求人登録 96件 335人 (人)

| 募集診療科目     | 求人数 | 常勤  | 非常勤 |
|------------|-----|-----|-----|
| 内科         | 118 | 88  | 30  |
| 外科         | 31  | 26  | 5   |
| 整形外科       | 25  | 22  | 3   |
| 精神科        | 18  | 16  | 2   |
| 循環器科       | 5   | 4   | 1   |
| 脳神経外科      | 12  | 9   | 3   |
| 消化器内科      | 12  | 9   | 3   |
| 麻酔科        | 10  | 8   | 2   |
| 眼科         | 6   | 5   | 1   |
| 放射線科       | 10  | 9   | 1   |
| 小児科        | 1   | 0   | 1   |
| 呼吸器内科      | 11  | 10  | 1   |
| リハビリテーション科 | 5   | 4   | 1   |
| 総合診療科・内科   | 7   | 6   | 1   |
| 神経内科       | 7   | 6   | 1   |
| 救命救急科      | 7   | 7   | 0   |
| 健診         | 3   | 1   | 2   |
| 産婦人科       | 1   | 1   | 0   |
| 泌尿器科       | 1   | 0   | 1   |
| 検診         | 4   | 2   | 2   |
| 皮膚科        | 3   | 2   | 1   |
| 人工透析       | 4   | 4   | 0   |
| 在宅担当医      | 1   | 1   | 0   |
| その他        | 33  | 28  | 5   |
| 合計         | 335 | 268 | 67  |

## 求 人 登 録 者(公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

| 登録番号   | 施設名                        | 所在地 | 募集診療科                       | 求人数 | 勤務形態   |
|--------|----------------------------|-----|-----------------------------|-----|--------|
| 160011 | 赤十字センター                    | 宮崎市 | 検診                          | 3   | 常勤・非常勤 |
| 160013 | (医)三晴会 金丸脳神経外科病院           | 宮崎市 | 脳外,整,放,麻,内                  | 10  | 常勤・非常勤 |
| 160017 | (医)プレストピア プレストピア宮崎病院       | 宮崎市 | 乳外,放,内,麻                    | 3   | 常勤     |
| 160020 | (財)弘潤会 野崎病院                | 宮崎市 | 精,内                         | 2   | 常勤     |
| 160031 | (社医)同心会 古賀総合病院             | 宮崎市 | 呼内,神内,眼,総診,呼外<br>臨病,乳外,整外,麻 | 11  | 常勤     |
| 160033 | (医)如月会 若草病院                | 宮崎市 | 精                           | 2   | 常勤     |
| 170046 | (医)社団善仁会 市民の森病院            | 宮崎市 | 消内,内分泌内,呼内,リウ,<br>神経内,健診    | 6   | 常勤・非常勤 |
| 170048 | (医)慶明会 けいめい記念病院            | 国富町 | 内,放,在宅                      | 3   | 常勤     |
| 180082 | 国立病院機構宮崎東病院                | 宮崎市 | 内,神内,整,消内                   | 5   | 常勤     |
| 190087 | 宮崎市郡医師会病院                  | 宮崎市 | 内(緩和),消内,呼内,総診              | 8   | 常勤     |
| 190094 | (医)耕和会 迫田病院                | 宮崎市 | 総内,内視鏡                      | 6   | 常勤・非常勤 |
| 190095 | (医)慶明会 宮崎中央眼科病院            | 宮崎市 | 眼                           | 1   | 常勤     |
| 200104 | (医)社団善仁会 宮崎善仁会病院           | 宮崎市 | 内,外,救急,呼外,婦人,整,<br>麻        | 7   | 常勤     |
| 200105 | (医)誠友会 南部病院                | 宮崎市 | 内,外,放                       | 3   | 常勤     |
| 210110 | (医)幸秀会 大江整形外科病院            | 宮崎市 | 整                           | 1   | 常勤     |
| 210118 | 慈英病院                       | 宮崎市 | 内,整,リハ                      | 7   | 常勤・非常勤 |
| 230128 | (医)真愛会 高宮病院                | 宮崎市 | 内,精                         | 2   | 常勤     |
| 230132 | (医)康友会 青島クリニック             | 宮崎市 | 内                           | 1   | 常勤     |
| 230134 | (医)慈光会 宮崎若久病院              | 宮崎市 | 精                           | 1   | 常勤     |
| 230139 | 介護老人保健施設サンフローラみやざき         | 国富町 | 内,外                         | 2   | 常勤     |
| 230143 | (医)社団孝尋会 上田脳神経外科           | 宮崎市 | 脳外,内                        | 2   | 常勤     |
| 230144 | 宮崎生協病院                     | 宮崎市 | 総内,呼内,消内,健診                 | 8   | 常勤・非常勤 |
| 230146 | (財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院 | 宮崎市 | 内,神内,外,整,脳外,リハ,<br>麻,救急,緩和  | 10  | 常勤     |
| 230148 | (医)コムロ美容外科                 | 宮崎市 | 美外,形成外,外,麻                  | 8   | 常勤・非常勤 |
| 230161 | (医)健心会 滝口内科病院              | 宮崎市 | 内                           | 2   | 常勤・非常勤 |
| 230164 | 宮崎県保健所                     | 宮崎市 | 公衆衛生                        | 3   | 常勤     |
| 230165 | 野崎病院健診センター                 | 宮崎市 | 健診                          | 1   | 非常勤    |
| 230171 | (医)いなほ会 日高病院               | 宮崎市 | 内                           | 1   | 非常勤    |
| 230174 | (医)常聖会 巴外科内科               | 宮崎市 | 内                           | 1   | 非常勤    |
| 230175 | 社会福祉法人 キャンパスの会             | 宮崎市 | 内,小,整                       | 1   | 常勤     |
| 230177 | (医)社団尚成会 近間病院              | 宮崎市 | 内,消内,消外,放(いずれか)             | 1   | 常勤・非常勤 |
| 230178 | 介護老人保健施設 むつみ苑              | 宮崎市 | 内                           | 1   | 常勤     |
| 230180 | (社)藤元メディカルシステム 藤元中央病院      | 宮崎市 | 内,糖内,呼内,血内                  | 4   | 常勤     |
| 160008 | (医)正立会 黒松病院                | 都城市 | 泌                           | 1   | 非常勤    |
| 160010 | (特医)敬和会 戸嶋病院               | 都城市 | 内,消内,整,神内                   | 7   | 常勤・非常勤 |
| 160018 | (医)宏仁会 メディカルシティ東部病院        | 都城市 | 内,救急,放,脳外,外,眼,<br>透内,皮      | 8   | 常勤     |
| 170057 | (医)清陵会 隅病院                 | 都城市 | 内,外,整                       | 3   | 常勤     |
| 180064 | 国立病院機構都城医療センター             | 都城市 | 内,呼内,総診                     | 4   | 常勤     |
| 180081 | (医)恵心会 永田病院                | 都城市 | 精                           | 1   | 常勤     |
| 190092 | 都城市郡医師会病院                  | 都城市 | 内,呼内                        | 6   | 常勤     |
| 210114 | 藤元病院                       | 都城市 | 精,内                         | 3   | 常勤     |
| 230127 | (医)倫生会 三州病院                | 都城市 | 外,内,整                       | 7   | 常勤・非常勤 |
| 230133 | 介護老人保健施設すこやか苑              | 都城市 | 不問                          | 1   | 常勤     |

| 登録番号   | 施設名                    | 所在地   | 募集診療科                         | 求人数 | 勤務形態   |
|--------|------------------------|-------|-------------------------------|-----|--------|
| 230137 | 医) 宏仁会 海老原内科           | 都 城 市 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 230142 | 医) 魁成会 宮永病院            | 都 城 市 | 内, リハ                         | 2   | 常勤     |
| 230153 | 都城健康サービスセンター           | 都 城 市 | 内                             | 1   | 非常勤    |
| 230157 | 医) 一誠会 都城新生病院          | 都 城 市 | 精, 内                          | 4   | 常勤・非常勤 |
| 230162 | 藤元総合病院                 | 都 城 市 | 内, 透, 循内, 救急, 放, 病理, 呼内, 精    | 16  | 常勤     |
| 230172 | 医) 静雄会 藤元上町病院          | 都 城 市 | 内                             | 4   | 常勤・非常勤 |
| 230176 | 一社) 藤元メディカルシステムグリーンホーム | 三 股 町 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 230179 | 医) 与州会 柳田クリニック         | 都 城 市 | 外                             | 1   | 非常勤    |
| 230181 | 介護老人保健施設 はまゆう          | 三 股 町 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 230183 | 医) 恵心会 坂元医院            | 都 城 市 | 消内, 老人内                       | 2   | 非常勤    |
| 160012 | 医) 伸和会 共立病院            | 延 岡 市 | 外, 整, 放, 内                    | 6   | 常勤     |
| 160021 | 医) 建悠会 吉田病院            | 延 岡 市 | 精                             | 3   | 常勤・非常勤 |
| 160034 | 特医) 健寿会 黒木病院           | 延 岡 市 | 外, 内, 緩和                      | 6   | 常勤・非常勤 |
| 190086 | 早田病院                   | 延 岡 市 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 200100 | 医) 育生会 井上病院            | 延 岡 市 | 産婦, 内                         | 2   | 常勤     |
| 200102 | 延岡市医師会病院               | 延 岡 市 | 消内, 消外, 内                     | 5   | 常勤     |
| 210109 | 延岡市夜間急病センター            | 延 岡 市 | 内, 小                          | 2   | 非常勤    |
| 230151 | 介護老人保健施設エクセルライフ        | 延 岡 市 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 230156 | 医) 中心会 野村病院            | 延 岡 市 | 内, 外                          | 2   | 常勤     |
| 230163 | 堺胃腸科内科クリニック            | 延 岡 市 | 内                             | 1   | 非常勤    |
| 160039 | 医) 誠和会 和田病院            | 日 向 市 | 外, 内, 整, 神内                   | 6   | 常勤     |
| 210111 | 宮崎県済生会 日向病院            | 門 川 町 | 内                             | 3   | 常勤     |
| 230147 | 美郷町国民健康保険西郷病院          | 美 郷 町 | 内, 整                          | 2   | 常勤     |
| 230152 | 美郷町国民健康保険南郷診療所         | 美 郷 町 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 230160 | 日向市立東郷病院               | 日 向 市 | 内, 整                          | 2   | 常勤     |
| 160006 | 都農町国保病院                | 都 農 町 | 内, 放, 外                       | 3   | 常勤     |
| 160023 | 医) 宏仁会 海老原総合病院         | 高 鍋 町 | 内, 腎内, 麻, 総診, 外, 整, 脳外, 眼, 検診 | 13  | 常勤・非常勤 |
| 230170 | 介護老人保健施設なでしこ園          | 高 鍋 町 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 160024 | 医) 隆徳会 鶴田病院            | 西 都 市 | 内, 外                          | 2   | 常勤     |
| 150002 | 医) 慶明会 おび中央病院          | 日 南 市 | 内, 外, 整                       | 4   | 常勤・非常勤 |
| 150003 | 医) 同仁会 谷口病院            | 日 南 市 | 内                             | 1   | 非常勤    |
| 160022 | 医) 愛鍼会 山元病院            | 日 南 市 | 内                             | 2   | 常勤     |
| 160037 | 医) 十善会 県南病院            | 串 間 市 | 精, 内(いずれか)                    | 1   | 常勤     |
| 170047 | 日南市立中部病院               | 日 南 市 | 内, 外, 整, リハ, 在宅               | 5   | 常勤     |
| 180071 | 串間市民病院                 | 串 間 市 | 内, 外                          | 2   | 常勤     |
| 230138 | 小玉共立外科                 | 日 南 市 | 不問                            | 2   | 常勤・非常勤 |
| 230149 | 介護老人保健施設おびの里           | 日 南 市 | 内                             | 2   | 常勤・非常勤 |
| 230166 | 医) 秀英会 英病院             | 串 間 市 | 内                             | 1   | 常勤     |
| 230168 | 医) 月陽会 きよひで内科クリニック     | 日 南 市 | 内                             | 7   | 常勤・非常勤 |
| 230182 | 串間市市木診療所               | 串 間 市 | 総診, 内(いずれか)                   | 1   | 常勤     |
| 160019 | 医) 相愛会 桑原記念病院          | 小 林 市 | 内, 皮                          | 4   | 常勤・非常勤 |
| 170043 | 医) 和芳会 小林中央眼科          | 小 林 市 | 眼                             | 2   | 常勤・非常勤 |
| 180067 | 小林市立病院                 | 小 林 市 | 救急, 総診, 放                     | 5   | 常勤     |
| 180076 | 医) 友愛会 園田病院            | 小 林 市 | 外, 循内, 整, 脳外                  | 9   | 常勤・非常勤 |
| 190090 | 特医) 浩然会 内村病院           | 小 林 市 | 精, 内                          | 3   | 常勤     |
| 190091 | 医) 友愛会 野尻中央病院          | 小 林 市 | 整, 内                          | 4   | 常勤・非常勤 |
| 230155 | 医) 三和会 池田病院            | 小 林 市 | 脳外, 内, 放, 外, リハ               | 6   | 常勤・非常勤 |
| 230167 | 介護老人保健施設さわやかセンター       | 小 林 市 | 内                             | 1   | 非常勤    |
| 230169 | 医) 連理会 和田クリニック         | 小 林 市 | 内                             | 2   | 常勤     |
| 230173 | 医) 高千穂会 大森内科           | 小 林 市 | 内                             | 2   | 常勤・非常勤 |
| 170049 | 五ヶ瀬町国民健康保険病院           | 五ヶ瀬町  | 内, 外                          | 2   | 常勤     |
| 180070 | 高千穂町国保病院               | 高千穂町  | 内, 透                          | 3   | 常勤     |
| 190088 | 日之影町国保病院               | 日之影町  | 内, 整                          | 1   | 常勤     |

## 病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成29年3月13日現在

|                 |                                                                                                                                                  |                                       |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 譲渡物件         | ①宮崎市阿波岐ヶ原町前田 2633番，2634番<br>土地のみ：2022.17㎡(593.57坪)                                                                                               | 所有者：児湯医師会員<br>(医) 崧雲会 林クリニック          |
|                 | ②西都市中央町2丁目6番地<br>土地：2,280.83㎡(691.16坪)<br>建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建<br>1階 674.74㎡ }<br>2階 547.79㎡ } 1,400.48㎡(424.38坪)<br>3階 177.95㎡ }<br>※別途駐車場あり(20台) | 所有者：西都市西児湯医師会員<br>函師医院跡               |
| 2. 譲渡又は<br>賃貸物件 | ①小林市南西方49番地1<br>土地：1,991.34㎡(603.43坪)<br>建物：鉄筋コンクリート造陸屋根2階建<br>1階 471.41㎡ }<br>2階 638.35㎡ } 1,109.76㎡(336.29坪)<br>※駐車場あり(30台)                    | 所有者：西諸医師会員<br>(医) 社団 産婦人科<br>生駒クリニック跡 |
|                 | ②日向市鶴町2丁目9番15号<br>土地：792㎡(240坪)<br>建物：RC造 鉄骨造<br>1階 237.49㎡ }<br>2階 338.25㎡ } 913.99㎡(276.96坪)<br>3階 338.25㎡ }<br>※別途駐車場あり(10台)                  | 所有者：日向市東臼杵郡医師会員<br>三ヶ尻整形外科跡           |

### ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

#### お問合せ先 ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師協同組合)  
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179  
E-mail: isikyout@miyazaki.med.or.jp

## 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

### 宮崎県医師会広報委員会

E-Mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、

裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX: 0985-27-6550

き  
り  
と  
り  
せ  
ん

お名前：

ご所属：

T E L :

F A X :

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成29年 3月28日

| 4  |   | 月  |   |                                                      |                                                                                   |
|----|---|----|---|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 土 | 15 | 土 | 14:00 保育支援事業スキルアップ研修会(養成講座)                          | ↑                                                                                 |
| 2  | 日 | 16 | 日 |                                                      |                                                                                   |
| 3  | 月 | 17 | 月 | 18:30 辞令交付式                                          | 保<br>審<br>査                                                                       |
| 4  | 火 | 18 | 火 | 18:00 治験審査委員会<br>19:00 第1回常任理事協議会                    |                                                                                   |
| 5  | 水 | 19 | 水 |                                                      | ↓                                                                                 |
| 6  | 木 | 20 | 木 | 14:00 宮大医学部医の倫理委員会<br>19:00 県内科医会医療保険委員会             | 社<br>保<br>審<br>査                                                                  |
| 7  | 金 | 21 | 金 | 19:00 広報委員会<br>19:00 県外科医会全理事会                       |                                                                                   |
| 8  | 土 | 22 | 土 | 15:55 宮崎県臨床研修医説明会・講演会<br>/ 新研修医祝賀会                   | ↑                                                                                 |
| 9  | 日 | 23 | 日 | 16:00 九州各県医師会医療情報システム<br>担当理事連絡協議会                   |                                                                                   |
| 10 | 月 | 24 | 月 | 17:00 水月会宮崎セミナー                                      | 社<br>保<br>審<br>査                                                                  |
| 11 | 火 | 25 | 火 | 18:15 医協理事会<br>19:00 第1回全理事協議会<br>終了後 医協理事・運営委員合同協議会 |                                                                                   |
| 12 | 水 | 26 | 水 | 19:00 第2回常任理事協議会                                     | ↓                                                                                 |
| 13 | 木 | 27 | 木 | 16:00 支払基金幹事会                                        | 産<br>業<br>医<br>部<br>会<br>理<br>事<br>会<br>県<br>内<br>科<br>医<br>会<br>会<br>計<br>監<br>査 |
| 14 | 金 | 28 | 金 | 19:00 医師国保組合理事会                                      |                                                                                   |
| 15 | 土 | 29 | 土 | 19:00 広報委員会                                          | (昭和の日)                                                                            |
|    |   | 30 | 日 |                                                      |                                                                                   |

※都合により、変更になることがあります。  
 行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成29年 3 月 28 日

| 5  |   | 月                                     |                                                                      |
|----|---|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1  | 月 |                                       | 14 : 40 (日医)日医連常任執行委員会<br>15 : 00 (日医)都道府県医師会長協議会                    |
| 2  | 火 | 18 : 00 治験審査委員会<br>19 : 00 第4回常任理事協議会 | 16 火 17 : 00 (日医)日医連執行委員会<br>18 : 30 明日の医療を語る会<br>19 : 00 第6回常任理事協議会 |
| 3  | 水 | 全国医師ゴルフ選手権大会<br>(憲法記念日)               | 17 水                                                                 |
| 4  | 木 | (みどりの日)<br>7 : 00 全国医師ゴルフ選手権大会        | 18 木 15 : 00 (日医)日医医療IT委員会<br>18 : 30 医協会計監査                         |
| 5  | 金 | (こどもの日)                               | 19 金                                                                 |
| 6  | 土 |                                       | 20 土 14 : 30 産業医部会総会・研修会(TV<br>会議)                                   |
| 7  | 日 |                                       | 21 日                                                                 |
| 8  | 月 |                                       | 22 月 19 : 00 広報委員会                                                   |
| 9  | 火 | 18 : 40 医協理事会<br>19 : 00 第5回常任理事協議会   | 23 火 19 : 00 第7回常任理事協議会                                              |
| 10 | 水 | 14 : 00 (日医)都道府県医師会勤務医担<br>当理事連絡協議会   | 24 水                                                                 |
| 11 | 木 | 19 : 30 県産婦人科医会常任理事会                  | 25 木                                                                 |
| 12 | 金 |                                       | 26 金 17 : 00 九州各県保健医療福祉主管部<br>長・九州各県医師会長合同会議                         |
| 13 | 土 |                                       | 27 土 16 : 00 死体検案研修会                                                 |
| 14 | 日 |                                       | 28 日                                                                 |
| 15 | 月 | 19 : 00 広報委員会                         | 29 月                                                                 |
|    |   |                                       | 30 火 19 : 00 第2回全理事協議会                                               |
|    |   |                                       | 31 水 15 : 00 労災診療指導委員会<br>18 : 30 県医監事監査                             |

※都合により、変更になることがあります。  
行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日 本 医 師 会 生 涯 教 育 講 座 認 定 学 会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

| 名称・日時・場所                                                                            | 演 題                                                                    | CC<br>(単位)<br>がん検              | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| <b>第56回ひむか運動器セミナー</b><br>4月1日(土)<br>15:50~18:30<br>シーガイアコンベンションセンター<br><br>参加費：500円 | <b>日常診療で遭遇する軟骨下脆弱性骨折<br/>- 診断と治療のポイント -</b><br>福岡大学医学部整形外科学教室教授 山本 卓明  | 57<br>(0.5)<br><br>61<br>(0.5) | ◇主催<br>ひむか運動器セミナー<br>◇共催<br>エーザイ(株)<br>※アッヴィ合同会社<br>☎03-4577-1149 |
|                                                                                     | <b>変形性股関節症の病態と治療</b><br>九州大学医学研究院整形外科学教室教授<br>中島 康晴                    | 61<br>(0.5)<br><br>73<br>(0.5) |                                                                   |
| <b>第57回ひむか運動器セミナー</b><br>4月4日(火)<br>19:00~20:10<br>宮崎観光ホテル<br><br>参加費：500円          | <b>前十字靭帯再建術： 腱固定から解剖学的再建へ</b><br>行岡病院スポーツ整形外科センター長<br>大阪行岡医療大学教授 史野 根生 | 57<br>(0.5)<br><br>61<br>(0.5) | ◇主催<br>ひむか運動器セミナー<br>◇共催<br>※スミス・アンド・ニューネ<br>☎092-452-0143        |
| <b>都城市北諸県郡医師会学術講演会</b><br>4月6日(木)<br>19:15~20:30<br>ホテル中山荘                          | <b>多発性嚢胞腎における近年のトピックスと当院の臨床経験</b><br>都城市郡医師会病院内科医長 西浦 亮介               | 24<br>(0.5)<br><br>73<br>(0.5) | ◇主催<br>※都城市北諸県郡医師会<br>☎0986-22-0711<br>◇共催<br>大塚製薬(株)             |

| 名称・日時・場所                                                         | 演 題                                                                      | CC<br>(単位)<br>がん検診 | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成29年度延岡内科医会総会・学術講演会<br>4月7日(金)<br>19:00~20:30<br>ホテルメリージュ<br>延岡 | 当院における心房細動抗凝固療法のアドヒアランスと安全性<br>千代田病院循環器内科 小宮 憲洋                          | 12<br>(0.5)        | ◇主催<br>延岡内科医会<br>◇共催<br>日本ペーリンガーインゲルハイム㈱<br>◇後援<br>延岡医学会<br>(連絡先)<br>延岡市医師会<br>☎0982-21-1300        |
|                                                                  | 地域で心房細動患者の脳を護る<br>ー救急医が考える脳卒中治療ー<br>宮崎大学医学部病態解析医学講座<br>救急災害・医学分野教授 落合 秀信 | 78<br>(0.5)        |                                                                                                     |
| 第114回 宮崎市郡医師会病院心臓病研究会<br>4月10日(月)<br>18:50~20:30<br>宮崎観光ホテル      | 重症心不全の治療と管理<br>九州大学病院循環器内科診療講師 肥後 太基                                     | 15<br>(0.5)        | ◇主催<br>宮崎市郡医師会病院心臓病研究会<br>◇共催<br>セント・ジュード・メディカル㈱<br>トーアエイヨー㈱<br>(連絡先)<br>宮崎市郡医師会病院<br>☎0985-24-9119 |
|                                                                  | 重症心不全外科治療の戦略<br>九州大学病院心臓血管外科教授 塩瀬 明                                      | 9<br>(0.5)         |                                                                                                     |
| 南那珂医師会生涯教育医学会<br>4月12日(水)<br>18:50~20:00<br>南那珂医師会館              | 変形性関節症治療：国内外の最新ガイドラインとパラダイムシフト<br>JCHO東京新宿メディカルセンター<br>脊椎脊髄センター長 川口 浩    | 61<br>(1.0)        | ◇主催<br>※南那珂医師会<br>☎0987-23-3411<br>◇共催<br>日本イーライリリー㈱<br>塩野義製薬㈱                                      |
| 西臼杵郡医師会学術講演会<br>4月13日(木)<br>19:00~20:10<br>ホテル高千穂                | ロコモティブシンドロームを取り巻く最近の話題<br>ーサルコペニア・フレイルー<br>宮崎大学医学部整形外科教授 帖佐 悦男           | 19<br>(0.5)        | ◇主催<br>※西臼杵郡医師会<br>☎0982-73-2010<br>◇共催<br>延岡市西臼杵郡薬剤師会<br>第一三共㈱                                     |
|                                                                  |                                                                          | 77<br>(0.5)        |                                                                                                     |

| 名称・日時・場所                                                                          | 演 題                                                            | CC<br>(単位)<br>がん検診             | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>第1回宮崎外傷研究会</b><br>4月14日(金)<br>18:40~20:30<br>宮崎大学医学部<br>臨床講義室<br><br>参加費: 500円 | <b>骨盤骨折の治療戦略—初期治療から脆弱性骨折まで—</b><br>明理会中央総合病院副院長兼整形外科部長<br>大泉 旭 | 57<br>(0.5)<br><br>77<br>(0.5) | ◇主催<br>宮崎外傷研究会<br>◇共催<br>科研製薬(株)<br>(連絡先)<br>宮崎大学医学部整形外科<br>☎0985-85-0986               |
| <b>延岡心臓病カンファレンス</b><br>4月18日(火)<br>19:00~21:00<br>県立延岡病院                          | <b>肺切除後に発生する心房細動の検討</b><br>県立延岡病院呼吸器外科医長<br>能勢 直弘              | 25<br>(0.5)                    | ◇主催<br>延岡心臓病カンファレンス<br>◇共催<br>フクダ電子(株)<br>グッドウィル(株)<br>(連絡先)<br>県立延岡病院<br>☎0982-32-6181 |
|                                                                                   | <b>当院の心筋梗塞患者の造影剤腎症の検討</b><br>県立延岡病院循環器内科医長<br>黒木 一公            | 76<br>(0.5)                    |                                                                                         |
|                                                                                   | <b>出血性脳塞栓により診断に至った感染性心内膜炎の一例</b><br>県立延岡病院循環器内科医長<br>福嶋 隆一郎    | 8<br>(0.5)                     |                                                                                         |
|                                                                                   | <b>VTEの治療とリスク管理について</b><br>県立延岡病院循環器内科副医長<br>日下 裕章             | 14<br>(0.5)                    |                                                                                         |
| <b>宮崎県皮膚科医会特別講演会</b><br>4月20日(木)<br>19:00~20:30<br>KITEN                          | <b>蕁麻疹診療で困らないための皮膚科医の役割</b><br>広島大学医歯薬保健学研究院皮膚科学教授<br>秀 道広     | 2<br>(0.5)<br><br>26<br>(0.5)  | ◇主催<br>宮崎県皮膚科医会<br>◇共催<br>※大鵬薬品工業(株)<br>☎0985-27-4527<br>◇後援<br>宮崎県医師会                  |

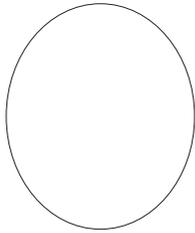
| 名称・日時・場所                                                                    | 演 題                                                                             | CC<br>(単位)<br>がん機 | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>第173回宮崎県眼科医会講習会</b><br>4月22日(土)<br>16:00~19:00<br>宮崎観光ホテル<br>参加費: 3,000円 | <b>初期緑内障の診断と治療</b><br>岐阜大学医学部附属病院眼科准教授 川瀬 和秀                                    | 36<br>(1.0)       | ◇主催<br>※宮崎県眼科医会<br>☎0985-28-1015<br>◇共催<br>参天製薬(株)                                        |
|                                                                             | <b>生化学的手法による網膜色素変性の病態解析</b><br>札幌医科大学医学部眼科学講座教授 大黒 浩                            | 36<br>(1.0)       |                                                                                           |
| <b>(社)宮崎県精神科診療所協会学術講演会</b><br>4月22日(土)<br>18:50~20:15<br>KITEN              | <b>アルコール依存症とADHD</b><br>高嶺病院医長 田中 増郎                                            | 70<br>(1.0)       | ◇主催<br>(社)宮崎県精神科診療所協会<br>◇共催<br>日本イーライリリー(株)<br>(連絡先)<br>(医)ハートピア細見クリニック<br>☎0985-35-1100 |
| <b>平成29年度宮崎県小児科医会総会・春季学術講演会</b><br>4月23日(日)<br>13:30~17:00<br>県医師会館         | <b>宮崎県における小児救急医療電話相談事業と急病センター小児科受診者の動向調査結果</b><br>宮崎県小児科医会長 高 山 修二<br>たかやま小児科院長 | 12<br>(0.5)       | ◇主催<br>※宮崎県小児科医会<br>☎0985-22-5118                                                         |
|                                                                             | <b>県立宮崎病院における小児ITPの臨床像に関する検討</b><br>県立宮崎病院小児科医長 下之段 秀美                          | 8<br>(0.5)        |                                                                                           |
|                                                                             | <b>遺伝子検査と治療の最前線(仮)</b><br>情報・システム研究機構国立遺伝学研究所<br>総合遺伝研究系人類遺伝研究部門教授<br>井ノ上 逸朗    | 72<br>(1.0)       |                                                                                           |
|                                                                             | <b>母子の言葉に耳を傾けて</b><br><b>—“エンジンバラ産後うつ病質問票”5年間の経験から—</b><br>わかば小児歯科理事・院長 旭爪 伸二   | 71<br>(1.0)       |                                                                                           |

| 名称・日時・場所                                                                | 演 題                                                                                                          | CC<br>(単位)<br>がん検診                                | 主催・共催・後援<br>※ = 連絡先                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 宮崎脳卒中連携を<br>考える会<br>4月25日(火)<br>19:00~20:40<br>ホテルJALシティ<br>宮崎          | 潜因性脳梗塞へのアプローチ LINQvsESUS<br>杏林大学医学部脳卒中医学教授 平野 照之                                                             | 73<br>(0.5)                                       | ◇主催<br>(社)日本脳卒中協会宮崎支部<br>◇共催<br>宮崎県内科医会<br>日本メドトロニック(株)<br>※ブリストル・マイヤーズスクイブ(株)<br>☎099-805-3325<br>ファイザー(株) |
|                                                                         | 脳卒中医療連携の必要性<br>杏林大学医学部脳卒中医学教授 平野 照之<br>宮崎市郡医師会病院循環器内科長 足利 敬一<br>宮崎大学医学部第一内科助教 井手口 武史<br>潤和会記念病院脳神経外科医長 川添 琢磨 | 78<br>(0.5)<br><br>12<br>(0.5)                    |                                                                                                             |
| 都城市北諸県郡医<br>師会学術講演会<br>4月25日(火)<br>19:15~20:45<br>ホテル中山荘                | 便通異常治療の最新アプローチ<br>佐賀大学医学部附属病院光学医療診療部診療教授<br>岩切 龍一                                                            | 53<br>(0.5)<br><br>54<br>(0.5)<br><br>55<br>(0.5) | ◇主催<br>※都城市北諸県郡医師会<br>☎0986-22-0711<br>◇共催<br>アステラス製薬(株)                                                    |
| 宮崎市産婦人科<br>医会4月例会<br>4月27日(木)<br>19:00~20:00<br>ホテルJALシティ<br>宮崎         | 胎児心機能からみた心拍数モニタリング<br>鹿児島市立病院産婦人科部長 上塘 正人                                                                    | 1<br>(0.5)<br><br>71<br>(0.5)                     | ◇主催<br>宮崎市産婦人科医会<br>(連絡先)<br>宮崎市郡医師会<br>☎0985-53-3434                                                       |
| 西諸医師会・西諸<br>内科医会合同学術<br>講演会<br>4月28日(金)<br>19:00~20:30<br>ガーデンベルズ<br>小林 | 北九州におけるCKD病診連携の取り組み<br>—CKD治療と予防を含めて—<br>小倉記念病院副院長 金井 英俊                                                     | 10<br>(1.0)<br><br>73<br>(0.5)                    | ◇主催<br>※西諸医師会<br>☎0984-23-2113<br>◇共催<br>西諸内科医会<br>協和発酵キリン(株)                                               |



医師年金ご加入のおすすめ

診療メモ



# 救急救命士の活動について

宮崎市消防局 救急救命士 はま はた たか あき  
濱 畑 貴 晃

## ○はじめに

- ・ 県内の救急隊員数について  
平成28年 4月 1日現在、宮崎県では438人の救急隊員が活動しており、そのうち救急救命士は229人となっています。なお、救急隊は3名で構成されており、通常1名以上の救急救命士が乗車しています。
- ・ 県内の救急車数について  
県内の各消防本部には、54台の救急車が配備されており、そのうち42台が常時運用されています。
- ・ 県内の救急件数等について(図1、図2)  
平成27年、県内各消防本部における出動件数は44,089件であり、10年前に比べ約22.5%増加しています。そのうち、救急車で搬送された人数は39,953人で、傷病程度別では、軽症37.7%、中等症41.1%、重症19.1%、死亡・その他2.1%となっています。事故種別ごとの救急出動件数は、急病59.5%、転院搬送15.6%、一般負傷12.6%、交通事故8.4%、その他3.9%の順となっています。

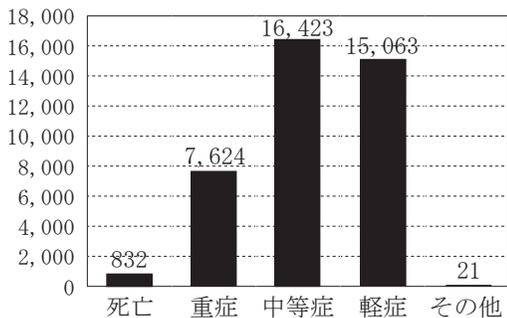


図1 平成27年中 傷病程度別の搬送人員数(宮崎県)

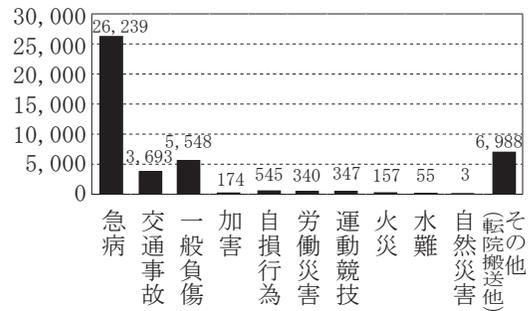


図2 平成27年中 事故種別の出動件数(宮崎県)

## ○救急救命士制度発足から現在まで

救急救命士制度は、救急に対するニーズの高まりや心肺機能停止患者の救命率向上を目的として、平成3年8月に開始されました。それまで、救急隊が緊急避難的に「応急処置」のみを行っていましたが、本制度により、国家資格として医師の具体的指示のもと、半自動除細動器による除細動、乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液、食道閉鎖式エアウェイ及びラリングアルマスクを用いた気道確保の3つの「特定行為(救急救命処置)」の実施が認められました。

その後、必要に応じた制度改正が行われ、現在では重度傷病者への処置も可能となりました。

以下、現在の救急救命士が行える主な救命処置を記載します。

- ①「自動体外式除細動器による除細動」 ※  
・ 処置の対象となる患者が心臓機能停止の状態であること。
- ②乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保のための輸液 ※

③食道閉鎖式エアウェイ、ラリングアルマスク又は気管内チューブによる気道確保 ※  
 ・気管内チューブによる気道確保については、その処置の対象となる患者が心臓機能停止及び呼吸機能停止の状態であること。

④アドレナリンの投与 ※

・アドレナリンの投与については、その処置の対象となる患者が心臓機能停止の状態であること。

⑤乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保及び輸液 ※

(重度傷病者に対する心肺停止前の処置)

⑥ブドウ糖溶液の投与 ※

・ブドウ糖溶液の投与については、その処置の対象となる患者が血糖測定により低血糖状態であると確認された状態であること。

⑦精神科領域の処置

・精神障害者で身体的疾患を伴う者及び身体的疾患に伴い精神的不穏状態に陥っている者に対しては、必要な救急救命処置を実施するとともに、適切な対応をする必要があること。

⑧小児科領域の処置

・基本的には成人に準ずること。  
 ・新生児については、専門医の同乗を原則とすること。

⑨産婦人科領域の処置

・墜落産時の処置……臍帯処置(臍帯結紮・切断)  
 ・胎盤処理・新生児の蘇生(口腔内吸引、酸素投与、保温)  
 ・子宮復古不全(弛緩出血時)……子宮輪状マッサージ

⑩自己注射が可能なエピネフリン製剤によるエピネフリンの投与

・処置の対象となる重度傷病者が、あらかじめ自己注射が可能なエピネフリン製剤を交付されていること。

⑪血糖測定器(自己検査用グルコース測定器)を用いた血糖測定

※特定行為については、各地域のメディカルコ

ントロールにおいてプロトコールが作成されています。また、救急救命士の資格により行える処置は限られています。

### ○救急現場活動事例

それでは、事例に沿って救急救命士が行える処置を紹介します。

#### [事例]

某市内某所、日曜日の早朝。食後にソファでくつろいでいた50歳男性が、急な胸痛に襲われ倒れました。慌てた妻は、急いで119番に通報し通信指令員の口頭指導で心肺蘇生法を開始します。

通報から約8分後、救急車と消防車の2台が患者宅に到着しました。

妻に代わり、心肺蘇生を開始する救急隊員と消防隊員。AEDを装着したところ、除細動(電気ショック)の適応であるメッセージが流れ、隊員の1人が①除細動を実施します。その後、人工呼吸を行っていた隊員から、嘔吐物により換気に抵抗があると報告がありました。救急救命士Aは、直ぐに指導医に連絡を入れ、気管挿管と静脈路確保、薬剤投与の指示要請と病院受け入れの連絡をしました。

医師の指示を得た救急救命士Aは、その場で③気管挿管を実施し、消防隊の協力を得て患者を救急車内へ収容。直ちに病院へ向けて救急車を走らせました。

車内では、人工呼吸器を使用しながら心肺蘇生を継続するとともに、2回目の①除細動を実施し、患者の右腕に⑤静脈路を確保しアドレナリンを接続したところで、再度、医師に連絡を入れ、薬剤投与と3回目以降の除細動実施の指示を受けました。

病院への搬送中、④アドレナリンを投与し3回目の①除細動を実施した2分後、AEDの画面にQRS波形を確認するとともに総頸動脈で脈拍が触知出来るようになりました。しかし、自発呼吸については不十分であったため、人工呼吸のみ継続し、医師への報告とバイタルを測定しながら病院に到着しました。

### ○最後に

プレホスピタルの現場では、通報者の動揺や狭隘な現場など、様々な要因が救命率向上の弊害となっています。私たちはその弊害を無くすべく、住民への啓発活動や自身のスキルアップ、関係機関との連携強化を行いながら、更なる救命率の向上を目指します。また、救急救命士法が制定されてから25年が経過しましたが、国では更なる処置拡大に向けた検討が行われています。私たち救急救命士は、今後とも各種学会や講習会などに積極的に参加し、来る処置拡大に向けた自己研鑽を行ってまいります。

## 宮大医学部学生のページ

## EMPとは

宮崎大学医学部4学年 <sup>かの</sup>叶 <sup>はら</sup>原 <sup>あ</sup>亜 <sup>べに</sup>紅

EMPとは、English for Medical Professionals またはEnglish for Medical Purposesの略称です。本学で行われている講義の1つで複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成を目的としており、将来、海外で医学を学びたい、国際的な医療活動をしたいという希望を持った学生が参加しています。

EMP受講者の第一の目標は、6年次のクリニカルクラークシップでの海外派遣です。受講者は6年間の英語教育の集大成として、アメリカのカリフォルニア大学アーバイン校、タイのプリンスオブソンクラ大学、台湾の国立成功大学、中国の上海交通大学と温州医科大学のいずれかの大学で約1か月間実習させていただくことができます。

EMPでは1～5年次までの一貫専門英語教育が行われますが、ここでは4年次のEMP4について説明したいと思います。

まず、前期には学期中に週1回、EMPの授業が行われます。そこでは英語科の教員だけでなく、医師や研究者、外部講師による授業も行われます。今年度はオレゴン大学やハワイ大学の医師や医学生との交流、JICA研修員との交流などの機会もありました。主に医療面接の練習やグループディスカッションなど、“話すこと”に重点が置かれています。

後期には、春休みの1週間がEMPの授業に充てられています。他の大学などからゲスト講師を招き、さまざまなアプローチから1週間集中して学習することで、高度な英語を学ぶことができます。例えば、英語教育の専門科である

金岡正夫先生(鹿児島大学)の授業ではストラテジックかつロジカルなライティングを学びました。医学英語のカリスマである押味貴之先生(国際医療福祉大学)の授業では英語での医療面接や症例報告のノウハウを教えていただきました。また池ノ上克先生(宮崎大学長)の授業では産婦人科分野の1つの症例を通じて、患者の状態からどのように情報を収集し、選択するかということの意義を学習することが出来ました。

そのほかにも英語でチュートリアルを行ったり、5年次のEMP5で行われるポスターセッションに参加させていただいたり、合同で医療面接の練習をしたりなど、発表や質問などを通じてより実践的に医学英語に触れることができました。

講師1人に対し学生多数という講義の形式に慣れ切ってしまうため、EMPでのグループディスカッションやチュートリアルは私たち学生にとってとても新鮮なものです。またEMPは医学英語に触れる貴重な機会であり、普段の英語学習の成果を発揮する場面でもあります。先生方から教わることももちろん多くありますが、同じ目標を持つ仲間たちに刺激され、学習のモチベーションが高まるということを強く実感しています。

今後社会がより国際的に発展していくと、海外に限らず日本のどこの医療現場でも英語が用いられるようになるかもしれません。そんなときに、自信をもって英語を使えるように、学んでいきたいです。

医師資格証を持ちましょう

## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会にお問い合わせください。また、MMA通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。県医師会学術広報課(TEL 0985-22-5118)までご連絡ください。

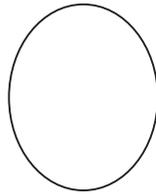
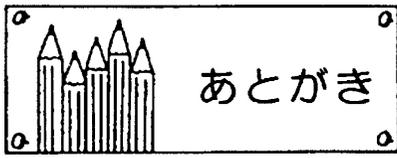
| 送付日   | 文 書 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月10日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「病原微生物検出情報」の送付について</li> <li>・麻しん及び風しんの定期接種(第2期)対象者に対する積極的な接種勧奨並びにワクチンの供給等について</li> <li>・「平成29年度介護報酬改定による介護職員処遇改善加算の拡充について」の送付について</li> <li>・麻しん風しん混合ワクチンの在庫状況調査について</li> <li>・子ども予防接種週間の実施についての厚生労働省通知について</li> <li>・「子ども予防接種週間」の実施に伴う小児救急医療体制の確保について</li> <li>・黄熱に関する情報提供及び協力依頼について</li> </ul>                                                        |
| 2月13日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップの開催結果について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 2月16日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度日本医師会「医療安全推進者養成講座」の受講者募集について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 2月17日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定接種の登録申請に係る受付期間について</li> <li>・平成28年度「自殺対策強化月間」における啓発活動等の推進について</li> <li>・日本脳炎の定期的予防接種に係る積極的な接種勧奨の取扱い等について</li> <li>・「子ども予防接種週間」の実施に伴う小児救急医療体制の確保について</li> <li>・特定接種に関する接種実施医療機関について</li> <li>・自動体外式除細動器(AED)設置登録情報の適切な更新登録について</li> </ul>                                                                                                             |
| 2月21日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第3回宮崎大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議主催研修会」～災害リハの実践を学ぶ～発災したら私たちに何が出来る?～</li> <li>・東日本大震災により被災した児童生徒を受け入れる学校の対応について(情報提供)</li> <li>・黄熱に関する情報提供及び協力依頼について</li> <li>・鳥インフルエンザA(H7N9)に関する情報提供について</li> <li>・厚生労働省「年金制度」及び「臨時福祉給付金(経済対策分)」に係るリーフレット・ポスターの設置及び掲示等について</li> <li>・鳥インフルエンザA(H7N9)の現状と対応について</li> <li>・肝炎治療特別促進事業におけるジメンシー配合錠及びベムリディ錠の取扱いについて</li> </ul> |
| 2月23日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「遷延性意識障がい」のある方々の実態調査について</li> <li>・「地域医療連携推進法人制度について」等について</li> <li>・厚生労働省「疑義解釈資料の送付について(その9)」の送付について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                       |
| 2月27日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度日本医師会生涯教育制度について</li> <li>・病院におけるアスベスト(石綿)対策に係る指導の徹底及びアスベスト(石綿)使用実態調査に係るフォローアップ調査の実施について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                               |

| 送付日   | 文 書 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月28日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に係る運転免許更新等における診断書提出に関する情報提供について</li> <li>・鳥インフルエンザA(H7N9)に関するリスクアセスメントについて</li> <li>・「医療従事者の勤務環境改善に役立ついきいき働く医療機関サポートWeb」のリーフレットの送付について</li> <li>・「出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について」のQ&amp;Aについて</li> <li>・平成29年地域医療介護総合確保基金(医療分)について</li> </ul>                         |
| 3月1日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年熊本地震により被災した被保険者に対する一部負担金等に関する取扱いについて</li> </ul>                                                                                                                                                                                                              |
| 3月3日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査料の点数の取扱いについて</li> <li>・「病原微生物検出情報」の送付について</li> <li>・国立がん研究センター「四肢軟部肉種専門施設情報公開プログラム」について(厚生労働省委託事業「希少がん対策事業」)</li> <li>・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて</li> </ul>                                                                                                       |
| 3月6日  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正等について</li> <li>・抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤(オブジーボ点滴静注及びキイトルーダ点滴静注)に係る最適使用推進ガイドラインの策定に伴う留意事項等について</li> <li>・検査料の点数の取扱いについて</li> <li>・平成29年度3月以降の東日本大震災による被災者に係る一部負担金等の取扱いについて</li> <li>・医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取扱いについて</li> <li>・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて</li> </ul> |

.....

あなたできますか？(解答)

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| d | a | d | d | c | c | e | b | c | d  |



また今年も卒業の季節を迎え、先輩方の門出や新入生の入学を祝う時期となりました。特に今年は、同期となる看護科の学生が卒業するということがあって、これまで以上に残される側としての寂しさを感じているところです。新たに入学する学年は29期生なので29と呼ばれるのですが、25の自分としては30という大台を目前として今、時間の早さと卒業までに残された期間の少なさを感じてしまいます。

さて、私はお酒が好きで、ビールをはじめとした日本酒やワイン、焼酎など様々な種類のお酒を楽しむのですが、最近では各地の美味しいとされている日本酒を飲むことにはまっています。先日飲んだのは、茨城県産の『来福 純米生原酒 さくら 桜の花酵母使用』で、その前に飲んだのは青森県産の『豊盃 純米吟醸花想い55』という日本酒です。来福はその名の通り、花の酵母を使って作られた日本酒でさわやかに香る桜の香りと軽い酸味のある軽やかな味わいが美味しいお酒で、まさにお花見で飲むお酒にぴったりです。(私が飲んだのは友達の家でしたが…) 豊盃は少人数の蔵から作られている日本酒で、フルーツのような華やかな香りとうよやかな味わいのあるお酒なので飲み続けても飽きが来ません。このように日本酒は原料となっているお米、酵母、酒造などによって全く異なる味わいがあり、その好みも人それぞれ異なります。多種多様なお酒の中から自分の好みの一本を探していく作業は、宝探しにも似たような感覚があり、とても楽しいです。これからも、(肝臓には気を付けながら)お酒を嗜んでいけたらなーと思います。(柴野)

\* \* \*

ある雑誌にAI(人工知能)による診断補助の記事がありました。症状や血液検査の結果を入力すると、鑑別すべき診断が表示されていくようです。実用化はまだまだのようですが、無限とも思える鑑別診断を求められる内科・救急診療に携わる医師に期待されているそうです。私は整形外科なので、問診して痛いところを触り、動かし、X線へ。AIに入力するほうが時間かかりそうです。いい勉強にもなるので、いつか整形外科用を作って欲しいですが、全然売れる気がしないので期待はしません。(岡本)

\* \* \*

小学生の子どもを持つ親には、「朝の立ち当番」といって指定された横断歩道で、登校中の子どもたちを誘導する仕事が交替で回ってくる。その際、「おはようございます」と声をかけるのだが、大声であいさつしてくれる子、視線を合わせるだけで無言の子、完全スルーの子など反応は様々だ。当然我が子の動向が一番気になるが、今まではスルーされたり、視線を合わされたりしただけだ。次回こそは私にニコッとしてほしいと思っているのだが。(山崎)

\* \* \*

つい先日、お世話になった教授が退職されるということで、退職記念祝賀会に出席してきました。入局して3年目のころ、ちょうど医局長をされていたということもあり、その後も何かとお世話になった先生で、懐かしさと同時にいつのまにか歳月は流れ、時が経つのは早いものだというものをつくづく感じたところでした。そして、その会で、多くの懐かしいお世話になった先生方ともお会いすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができて、本当に良かったと思いました。(上山)

\* \* \*

最近CATVで「孤独のグルメ」というのをよく見えています。松重豊扮する独身の中年サラリーマンが外回りの合間や出張の折に、その土地の美味しい食べ物に出会い、本能の赴くまま豪快にかつ幸せに空

腹を満たすという内容です。すべて実在の店ですので自分も次の学会の時はこの店に行ってみよう等と計画するのも楽しいものです。深夜番組ですが見ているとなんだがお腹が減ってきて、つい冷蔵庫や戸棚を探ってしまうのが困りものです。(稲倉)

\* \* \*

先日久しぶりにゴルフに行ってきました。みなさん初めてラウンドする方ばかりで、少し緊張感もあり、練習不足もたつてスコアは散々でした。飛距離は誰にも負けなかったのですが、どうもピンに近づくとんでもないところに行っちゃうんですね。ところが、ピンが見えないところから打つとピッタリ寄るんです。そんな私を周りの方々は、「野村さんは、ゴールが見えない方がいいタイプじゃない」と笑っておられました。ゴルフはまさに私の生き方そのものかもしれません。(野村)

\* \* \*

2年間、務めさせていただいた広報委員会も今月で卒業となりました。広報委員会や宮崎の医療を考える会を通して、医療に関する様々なことに関して改めて考える機会をいただいたことに感謝しております。また、委員の先生方を含め色々な方からお話をうかがうことで新しい視点や考え方を得ることができたと感じています。この貴重な経験を今後も活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございます。(佐井)

\* \* \*

医師国保組合では組合員およびその家族に特定健診を受けるように勧めています。実施率は毎年30%程度で高くはありません。健診の意義に疑問を持つ先生方がおられるのもその一因かと思えます。特定健診が始まってから10年が経ちます。実施率を補助金や保険料率に反映させるのであれば、国は健診によって疾病予防効果や医療費削減効果が得られるエビデンスを示す必要があるでしょう。(佐々木)

\* \* \*

## 今月のトピックス

### 随 想 宮崎県医師会諸先輩の短歌

若山牧水を生んだ宮崎は多くの歌人を輩出しているようです。長嶺元久先生に県医師会諸先輩方の短歌を紹介していただいておりますが、作者のバックグラウンドも合わせて解説されているので歌の深みがよく分かり、情景が目には浮かぶようです。私はサラダ記念日しか読んだことがありませんが、少し短歌に興味が湧いてきました。

6 ページ

### メディアの目 パチンコ依存症に医師の目を

IR法案と時期を同じくして厚労省は本邦でのギャンブル依存症疑いが536万人に上るとの推計を発表しました。この中にはパチンコ依存症が含まれており、子どもの貧困の一因にもなっているようです。我々医師ももっと目を向けなければいけないのは確かです。「子どもの貧困連鎖」の共著者でもある池谷孝司氏による提言です。

9 ページ

### 診療メモ 救急救命士の活動について

高齢化が進み、救急車搬送が必要な患者の割合は交通事故等による外傷者から疾病による急病者に大きくシフトしています。そのため病院搬送前救護の重要性が認識されるようになりました。現在、メディカルコントロールのもと救急救命士が行う救急救命処置は少しずつ拡大されています。宮崎市消防局の救急救命士である濱畑貴晃氏に救急救命士の活動について解説していただきました。

64 ページ

日 州 医 事 第812号(平成29年 4 月号)(毎月 1 回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行  
〒880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550  
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 沖田 和久・副委員長 西田 隆昭, 岡本健太郎  
委 員 中村 豪, 野村 勝政, 押川 隆, 馬場 萌子  
山崎 俊輔, 稲倉 琢也, 上山 貴子, 佐井 佳世, 柴野 雅資  
担当副会長 富田 雄二・担当理事 荒木 早苗, 佐々木 究  
事 務 局 学術広報課 立山 幸恵, 牧野 諭

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円(但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)